

# 滋賀県立障害者福祉センター

令和5年度

## 年報

設置主体

滋 賀 県

指定管理者 (公財) 滋賀県身体障害者福祉協会

# は じ め に

滋賀県立障害者福祉センターは、平成2年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理運営を行っているところです。

令和5年度は、第四期指定管理期間(令和3年度～令和7年度)の中間年であり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

3年あまり続いた新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日に感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へ移行し、季節性インフルエンザなどと同様に扱われることとなりました。この間、検温、手指消毒、体調確認や利用時間、利用人数の制限など、利用者の皆様には大変な御不便をおかけしました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

社会活動が再開される中、当センターにおいても、利用人数などの制限や感染症対策を徐々に緩和し、事業等を中止することなく実施することができ、年間利用者数の目標5万人を達成することができました。ご利用いただいた皆様にお礼申し上げますとともに、日々の運営にご協力いただいているボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々の温かい御支援と御協力に感謝申し上げます。

当センターは、今後も利用者の皆様に安全安心に御利用いただくことを第一に考え運営してまいりますので、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、令和5年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

令和6年9月

指定管理者

(公財)滋賀県身体障害者福祉協会  
滋賀県立障害者福祉センター所長

# 目 次

I 事業の概要	1
事業・教室開催状況	1
1. 行事・交流・大会事業	5
2. スポーツ教室	12
3. 文化教室	23
4. 更生相談事業	26
5. 養成・研修事業	28
6. 共催事業	29
7. 自主事業	31
II 登録ボランティア	32
III お客様アンケート	33
IV 広報・啓発	35
V 会議等	36
VI 研修状況等	37
VII クラブ活動	38
VIII 利用状況	39
IX 利用者と支える人の声	45
X 施設の概要	47
XI 組 織	52

# I 事業の概要

当センターは、障害のある人を対象とした行事、スポーツ教室、文化教室、更生相談、社会参加を進める等、活動の場を提供した。

## 事業・教室開催状況

### 行事・交流・大会事業

事業名		対象者	期間	回数	延人数	ページ
交流 行事	オープンアリーナ	障害のある人と その家族・介助者	4/29(土)・8/11(金祝) 11/3(金祝)・12/2(土) 13:30~15:00	4	166人	5
	オープンプール	1回目:小学生以下の障害のある人と その家族 2回目:身体障害者重度肢体不自由児 者 3回目:中学生以上の知的障害者 (25mに挑戦する人) 4回目:障害のある人 (25m以上泳げる人)	5/5(金祝)・7/17(月祝) 9/30(土)・2/12(月祝) 10:00~12:00	4	38人	6
	おたのしみ縁日	障害のある人 障害のない人	7/29(土)・8/20(日) 16:00~18:00	2	340人	7
	レッツイベント!	障害のある人 障害のない人	9/10(日) 10:00~15:30	1	245人	8
	障害者週間啓発イベント 清掃	福祉ゾーンの施設利用者と施設 職員	11/30(木) 13:30~14:30	1	84人	8
	クリスマスイベント	障害のある人 障害のない人	12/10(日) 10:00~15:00	1	368人	9
	スマイルスポーツ	パーキンソン病の人で、特定医療費 (指定難病)受給者証または、パーキ ンソン病による身体障害者手帳の所 持者とその介助者	6/8(木)・11/9(木) 13:30~15:00	2	28人	9
	シーズンディスプレイ	障害のある人 障害のない人	鯉のぼり・七夕 ハロウィン・クリスマス 書初め・ひな祭り	6	927人	11
大会	水泳記録会	障害のある人 障害のない人	3/24(日) 10:00~16:30	1	221人	10
	ボッチャ交流大会	各市町身体障害者更(厚)生会等 会員・協会青壮年部	3/20(水祝) 9:45~15:45	1	137人	10

### スポーツ教室

事業名		対象者	期日等	回数	延人数	ページ
スポーツ 入門教室	グラウンドゴルフ定例会	障害のある人 障害のない人	奇数月金曜日 13:30~15:15	6	102人	12
	※1 アクアビクス	障害のある人 障害のない人	4月~3月土曜日 10:30~11:30	12	193人	12
	チャレンジボッチャ	障害のある人 障害のない人	偶数月金曜日 13:30~15:00	6	67人	12
	リズムでダンス	知的障害者 (中学生以上)	1月~3月土曜日 15:30~16:30	6	187人	13
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年	44	716人	13

は令和5年度新たに開催した事業・教室

※1 11月、12月はプール閉鎖のため「エアロビクス」に変更

事業名		対象者	期日等	回数	延人数	ページ
健康維持 増進	大人の体の使い方 & スイム	障害のある人 障害のない人 20歳以上	6月～3月金曜日 10:00～12:00	7	82人	14
	ラジオ体操	障害のある人 障害のない人	通年 9:25～9:30	—	1396人	14
重度 障害者 対象教室	水中らくらくアドバイス	重度肢体不自由児者と その介助者	通年	9	23人	14
ジュニア 対象教室	親子水泳	●療育手帳保持者で小学生(1～3 年生)とその親 ●特別支援学校・特別支援学級の 「知的障害区分」のもので小学生(1 ～3年生)とその親	6月～7月土曜日 10:00～11:00	6	126人	15
	体の使い方 キッズ	知的・発達障害のある4歳(令和 5年4月1日現在)～小学2年生 (身体障害除く)とその親	7月～8月日曜日 9:45～10:30	5	94人	15
	体の使い方 ジュニア	知的・発達障害のある小学生3年 ～6年(身体障害除く)	7月～8月日曜日 11:00～11:50	5	118人	15
ステップ アップ 教室	卓球(初心者)	障害のある人	4月～3月火曜日 13:30～15:00	12	5人	16
	卓球ラリートタイム	障害のある人 障害のない人	4月～3月火曜日 13:30～15:00	12	141人	16
	STTラリートタイム	視覚障害者	4月～3月木曜日 13:30～15:00	12	143人	16
	スイム・スイム・スイム	障害のある人(中学生以上35歳 まで)で集団指導に対応できる人	1月～3月日曜日 17:45～18:45	6	187人	17
	水泳選手育成	小学校6年生以上の障害のある 人で、競技会への出場を希望し、 高い意欲で練習会に参加できる 人	4月～3月金曜日 18:30～20:30	※2 35	961人	17
	バスケットボール選手 育成	療育手帳所持者および準ずる人 または、養護学校・高等養護学校 でバスケットボールを行っていた 人で、競技会への出場を希望 し、高い意欲で練習会に参加で きる人	4月～12月土・祝 10:00～12:00 1月～3月土曜日 13:00～15:00	24	422人	17
個別 サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年	—	167人	18
測定 評価	体力測定・トレーニング アドバイス	身体障害者・精神障害者	10/25(水) 13:30～15:30	1	25人	18
バック アップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人 障害のない人	通年	—	666人	18
	日本縦断に挑戦	障害のある人 障害のない人	通年	—	76人	19
	タイムトライアル	障害のある人	4/2(日)・4/29(土祝) 10/1(日)・2/11(日祝) 17:45～19:00	4	19人	19
地域支援	短期水泳(湖北・湖東)	長浜・甲良養護学校区の小学生の 障害者とその親	11月～3月土曜日 9:15～10:15	5	127人	20
		長浜・甲良養護学校区の中学生 以上の障害者	11月～3月土曜日 10:30～11:30		101人	20

※2 水泳選手育成は1回開催を中止

事業名		対象者	期日等	回数	延人数	ページ
地域支援	短期水泳(湖西)	新旭養護学校区の小学生の知的障害者とその親	11月～3月土曜日 13:30～15:00	5	47人	20
		新旭養護学校区の中中学生以上の知的障害者		5	76人	20
	地域体の使い方キッズ(湖北・湖西)	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4・5歳児(身体障害除く)と小学1年生・2年生(身体障害除く)とその親	11月～3月日曜日 9:30～10:30	5	102人	21
	地域体の使い方ジュニア(湖北・湖西)	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある小学3年生～6年生(身体障害除く)	11月～3月日曜日 11:00～12:00	5	76人	21
	親子ふれあい広場(東近江)	療育教室通園児(東近江市めだかの学校・近江八幡市ひかりの子・日野町くれよん・竜王町たっぴー)	6/25(日)、10/28(土) 13:30～15:30	2	150人	22
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年	13	256人	22

#### 文化教室

事業名		対象者	期日等	回数	延人数	ページ
障害者文化教養向上事業	茶道教室①	茶道の経験がない人・初心者(中学生以上の障害のある人)	5月～12月土曜日 13:30～14:40	7	68人	23
	茶道教室②	茶道の経験がある人(中学生以上の障害のある人)	5月～12月土曜日 14:50～16:00	7	59人	23
	絵画教室 スマイル☺	障害のある人(小学4年生以上)	5月～11月日曜日 13:30～15:30	7	192人	23
	フラワーアレンジメント教室	障害のある人	10月～2月日曜日 10:00～12:00	5	94人	23
	ガーデニング教室	障害のある人	5/20(土) 13:30～15:30	1	18人	24
	手作り体験教室(ハーバリウム)	障害のある人	6/18(日) 10:00～12:00	1	20人	24
	お正月生け花教室	障害のある人	12/24(日) 10:00～12:00	1	21人	24
	手作り体験教室(マクラメプレスレット)	障害のある人	3/3(日) 10:00～12:00	1	14人	25
地域支援	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年	7	79人	25

#### 更生相談事業

事業名	対象者	期日等	回数	延人数	ページ
医療相談	当センターの利用者カードを所持する人	4月～3月水曜日 14:30～16:30	※3 11	36人	26
理学療法士によるリハビリ相談	医療相談を受けた人	4月～3月水・土曜日 15:00～16:00	12	32人	26

※3 開催中止1回あり

事業名	対象者	期日等	回数	延人数	ページ
※4 アドバイスタイム 水中歩行	医療相談を受けた人で 水中歩行や水中運動の指示が あった人	4月～3月水曜日 13:15～14:30	※5 23	194人	27
理学療法士による 障害別水中運動	医療相談を受けた人で 水中歩行や水中運動の指示が あった人	4月～3月水曜日 13:15～14:00	14	41人	27
地域支援 楽しく笑顔でリハビリ	パーキンソン病関連疾患(パー キンソン病・進行性核状性麻痺・大 脳皮質基底核変性症)	通年	8	80人	27

※4 11月、12月はプール閉鎖のため「理学療法士による健康教室」に変更

※5 プールボイラー故障により開催中止1回あり

#### 養成研修事業

事業名	対象者	期日等	回数	延人数	ページ
施設でできる簡単トレーニング &レク	県内の知的障害者対象の 入所施設・作業所等の施設職員	9/24(日) 13:30～15:30	1	7人	28
健康と体に関する学習会	障害のある人 障害のない人	11/23(木祝)・1/8(月祝) 2/23(金祝) 13:30～15:30	3	30人	28
障害に関する学習会	・県内在住・在勤のスポーツ指導員 ・スポーツ推進委員 ・登録ボランティア ・学習会の内容に関心のある人	3/17(日) 13:30～15:30	1	48人	29

#### 共催事業

事業名	対象者	期日等	回数	延人数	ページ
バスケットボール 強化練習会	県大会出場チームに 所属している者	5/20(土)、6/3(土) 13:00～16:30 1/20(土)、2/17(土) 9:30～12:00	4	115人	29
パーキンソン病 リハビリ大会	パーキンソン病の患者 およびその家族	7/2(日) 13:30～16:00	1	99人	30
滋賀ダイハツアリーナコラボ イベント ふれあいひろば	障害のある人 障害のない人	11/4(土) 10:00～15:00	1	160人	30

#### 自主事業

事業名	対象者	期日等	回数	延人数	ページ
水泳個別アドバイス	障害のない人	通年	0	0人	31
タイムトライアル	障害のない人	4/2(日)・4/29(土祝) 10/1(日)・2/11(日祝) 17:45～19:00	4	58人	
障害者スポーツ福祉体験 指導事業	障害のない団体等	通年	2	92人	

# 1. 行事・交流・大会事業

## オープンアリーナ

### (1) 目的 (参加人数 延べ166人)

障害のある人とその家族・介助者が、アリーナで色々なスポーツやレクリエーションをとおして、指導員とともにスポーツを楽しみ、今後の事業等の参加につなげる。

### (2) 協力

登録ボランティア

### (3) 内容



第1回目 フライングディスク体験  
(参加人数 延べ28人)



第2回目 遊び感覚で全身運動！トランポリン体験  
(参加人数 延べ74人)



第3回目 テニス体験  
(参加人数 延べ44人)



第4回目 ティーバッティングにチャレンジ！  
目指せ！ホームラン王！  
(参加人数 延べ20人)



※卓球、ボッチャは、第1回目から第4回目まで毎回実施

### (4) まとめ

各回受講者に対して指導員が関わりながら、スポーツを実施することで、楽しんでもらうことができた。また、毎回卓球とボッチャを実施したことで、「安心してできる種目がある中で、新しいチャレンジもできる」といった声をいただいた。今後、多くの参加がある中でも、指導員が関わり楽しんでもらえるような流れを組んでいきたい。

## オープンプール

### (1) 目的 (参加人数 延べ38人)

障害のある人とその家族・介助者が、指導員と一緒にプールに入り楽しむことで、今後の事業への参加および施設利用につなげる。

### (2) 協力

登録ボランティア

### (3) 内容



第1回目 水慣れ  
(参加人数 延べ19人)



第2回目 個々に応じた内容(歩行・リラックスなど)  
泳法除く  
(参加人数 延べ6人)



第3回目 個々に応じた内容(泳法)  
(参加人数 延べ6人)



第4回目 個々に応じた内容(泳法)  
(参加人数 延べ7人)

### (4) まとめ

各回、参加対象を絞り、内容を決めて開催することで、参加者に沿った指導をすることができた。また指導員と一緒に入ることで、できないことにも挑戦するなど普段とは違うプールを楽しむことができた。

## おたのしみ縁日

### (1) 目 的 (参加人数 延べ340人)

夏らしい雰囲気を楽しみ、夏休み期間の利用者サービスを図るとともに家族や友達との交流を深め、思い出を作る機会にする。

### (2) 協 力

滋賀県身体障害者福祉協会 青壮年部  
登録ボランティア

### (3) 内 容



わなげ



射 的



いろいろすくい



全 体

(1回目参加人数 延べ160人)(2回目参加人数 延べ180人)

### (4) ま と め

コロナ禍明けの開催は、前年度よりも多くの参加があった。重度心身障害者の方もおられ、一回目の7月に誰もができるような対応ができたことで、翌月にも「楽しみにして来た」という声もいただいた。一回目に各コーナーでの制限時間を設けたが、滞る場面があったので、二回目には制限時間を外したことでスムーズに運営できた。課題として、景品数の見積もりと駐車場の管理が挙げられる。参加人数は確実にはわからないが、多数となることを見越して余裕のある対応が次年度には求められる。

## レッツイベント!

### (1) 目的 (参加人数 延べ245人)

障害のある人があらゆる活動に積極的に参加する意欲を高める機会とし、この催しを通して障害のある人とない人が、様々な体験を共有する中で、障害の理解と認識を深めるための一助とする。

### (2) 協力

びわこ学園医療福祉センター草津  
滋賀県立図書館、登録ボランティア

### (3) 内容

- ・スパイダー、移動機器体験
- ・絵本の読み聞かせ、絵本紹介
- ・音楽ライブ
- ・ビーズアクセサリ作り

### (4) まとめ

昨年度に引き続き、びわこ学園医療福祉センター草津に依頼し、例年人気のスパイダーに加え、数年ぶりに移動機器の体験をおこなった。特に電動機器のコーナーでは大型の車椅子に乗った参加者が自らの手で移動できることで、本人や家族から驚きや喜びの声をいただいた。また、新しく取り入れた絵本コーナーでは、色とりどりの絵本を手にとったり、講師の読み聞かせに思い思い聞きいたりしていた。フィナーレでは音楽ライブを実施し、皆で音楽に合わせて体を揺らしたり、一緒に歌ったり楽しみながら締めくくれた。スパイダーのコーナーが人気で、お断りした参加者もおられたので、実施方法を検討し体験者数を増やせるようにしたい。



## 障害者週間啓発イベント (清掃)

### (1) 目的 (参加人数 延べ84人)

障害のある人とない人が集い、公共の場を清掃する。  
参加者に障害者週間を知ってもらう機会とする。

### (2) 協力

- ・福祉ゾーンねっとわーく
- ・登録ボランティア

### (3) 内容

滋賀県立障害者福祉センター前歩道の清掃活動

### (4) まとめ

障害者週間の期間や目的を知り、積極的な社会参加へつなげるため今年度は、清掃活動前に障害者週間について伝える機会を設けた。そのうえで、近隣施設と登録ボランティア、当センター利用者で協力して当センター前歩道の清掃活動を行った。近隣施設や利用者に周知を丁寧にしたことにより、昨年度まで参加のなかった施設や、当センター利用者の参加が増えた。コロナ禍もあり、近隣施設同士の交流が減ってきている中、この清掃活動をとおして施設利用者や職員、登録ボランティアが交流する貴重な機会となっている。活動後には、集めたごみの袋を前に参加者全員で写真撮影を行い、達成感から皆すがすがしい表情であった。

今後も引き続き近隣施設と一緒に活動できるような機会を設けていきたい。



## クリスマスイベント

- (1) 目的 (参加人数 延べ368人)  
障害のある人と障害のない人が共にクリスマスの雰囲気を感じ・共有する場を設け、社会参加と共助の一助とする。

(2) 内容

○午前の部

- ・キーホルダー作り・巨大迷路・缶バッジ作り
- ・遊びコーナー

○午後の部

- ・クリスマスコンサート(玉川ウインドオーケストラ)

(3) まとめ

午前の部で行ったキーホルダー作りは、数種類の背景紙とビーズでオリジナルの組み合わせができ、非常に人気であった。ただし、一部コーナーにおいて受付に列ができてしまったため、次年度の課題としてスムーズに流れるような人員の配置と工夫が必要である。

午後の部のコンサートは、アリーナの中央にスペースを空けて椅子を配置して、縦横を通りやすくしたことで、見通しが良くなり、前方に置いたカラーマットにも多くの子どもたちがリラックスして座れるスペースができた。そのスペースで歌ったり、踊ったりしながらコンサートを楽しむ様子が見られた。



## スマイルスポーツ (新規事業)

- (1) 目的 (受講人数 延べ28人)

自宅で過ごすことが多いパーキンソン病の人に体操やレクリエーションスポーツを通して、機能の維持や、こころの健康の維持・向上および交流の機会と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ・看護師によるメディカルチェック
- ・柔軟性を意識した体操とストレッチ
- ・正しい姿勢と呼吸
- ・毎日の生活の中で意識的に体が動かせるような動作ポイント
- ・レクリエーションスポーツ
  - ①ふうせんバレー ②グラウンドゴルフ(ホールインワン)

(3) まとめ

生活の質を維持するため、意識的に体を動かせるような運動を受講者全員で取り組み、アップテンポな音楽を流しながらリズムを用いた体操などを行った。

自宅では、日々個々にリハビリを頑張って取り組んでおられるが、全員で取り組むレクリエーションスポーツは、楽しく自然に大きな動作が取れて、表情も朗らかで良く楽しんでおられた。

参加(活動)には、体調維持や家族の協力が大きい。「やってみたい」という気持ちが向くような教室運営と広報周知が課題と考える。



## 第40回水泳記録会

### (1) 目的 (参加人数 延べ221人)

障害のある人もない人も、日々の練習の成果を発揮する場とし、他者との交流を深めるとともに今後の練習への意欲を高める。

### (2) 協力

登録ボランティア

### (3) 内容

#### 【第1部】

- ・25mに挑戦!
- ・水中レクリエーション

#### 【第2部】

- ・自由形、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ(25m、50m)
- ・100mフリーリレー



### (4) まとめ

コロナ禍が明け、障害のない人も含めて参加者の窓口を広げた。広く周知ができたことで、当センター水泳教室や、短期水泳(湖北・湖東・湖西)の受講者、高校生等県内全域や県外からも多くの方の参加があった。参加者は、それぞれの練習の成果を存分に発揮でき、会場は大きな拍手と歓声に何度も包まれた。一方で、一部計測ミスがあったため、事前の計測者の確認を徹底し、再発防止に努めたい。

## ボッチャ交流大会

### (1) 目的 (参加人数 延べ137人)

ボッチャ交流大会を開催することで、各地域会員が練習のため集う機会を増やし、会員同士の交流促進と健康増進を図り、地域の活性化を促進する。

### (2) 協力

ボッチャ協会(審判)  
登録ボランティア

### (3) 内容

- ・5チームリーグ戦 各試合2エンド
- ・各チーム持ち時間5分2エンド終了時同点の場合は、タイブレーク(代表者によるファイナルショット制度)



### (4) 参加人数・チーム

大津市 8人・3チーム	彦根市 9人・3チーム	近江八幡市 12人・5チーム	草津市 15人・5チーム
守山市 8人・4チーム	湖南市 10人・5チーム	甲賀市 19人・7チーム	東近江市 7人・3チーム
高島市 4人・2チーム	日野町 2人・1チーム	青壮年部 4人・2チーム	

### (5) まとめ

昨年度の反省をもとに試合数を増やすことを考え、8コート6チームの48チームで計画していたが、参加団体(市町等)が想定よりも少なかったため、8コート5チームのリーグ戦で実施した。

チームの構成人数を2人もしくは3人と、昨年度よりも少なくしたことで、個々の投球数が少ないなど、昨年度にあった意見を聞くことなく無事に終えることができた。

年々競技レベルが上がり、白熱した試合が繰り広げられ、待機しているチームの選手が見入っている姿や互いに攻略方法などを話され交流の輪が広がっている。

## シーズンディスプレイ

### (1) 目的 (参加人数 延べ927人)

季節を感じるきっかけに、利用者と共に館内をディスプレイすることで、より当センターを身近に感じ、親しみを持ってもらうことを目的とする。

### (2) 内容



鯉のぼり  
(参加人数 延べ150人)



七夕  
(参加人数 延べ160人)



ハロウィン  
(参加人数 延べ281人)



クリスマス  
(参加人数 延べ180人)



書初め  
(参加人数 延べ24人)



ひなまつり  
(参加人数 延べ132人)

### (3) まとめ

毎回多くの利用者の協力を得てディスプレイを作成した。利用者は、来所するたびに作品をつくったり、そのつくった作品の前で写真を撮影する等、季節ごとにディスプレイをいろいろな形で楽しまれた。「今年はどんな展示をされるのか楽しみ」等の声もいただき、利用者にも認知される事業になってきた。

## 2. スポーツ教室

### グラウンドゴルフ定例会

#### (1) 目的 (参加人数 延べ102人)

障害のある人もない人もグラウンドゴルフを通じて楽しく交流する中で、健康の増進及び社会参加の促進を図る。

#### (2) 内容

- ・6ホールを2週の計12ホールでスコアを競う
- ・毎回終了後、各ホールのホールインワン達成者および上位スコア者(1～3位)の発表
- ・後日、多目的ホールに成績表を掲示

#### (3) まとめ

コロナ禍により自粛していた参加者も戻り、新規参加者も増えて良い雰囲気の会となっている。グラウンドゴルフを楽しむだけでなく、ラウンド中の参加者同士の交流も盛んであった。肢体不自由の障害がある人の割合が多いことで、サポートや工夫が必要な方が増えた。職員と登録ボランティアが連携して安全に進める必要があった。また、参加者のホールを回るペースがそれぞれ違うため時間配分が難しく、内容の設定にも工夫が必要となっている。



### アクアビクス

#### (1) 目的 (参加人数 延べ193人)

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持増進・機能回復と社会参加の促進を図る。

#### (2) 内容

- ・リズムに合わせて水中でのエクササイズ
- ・ウォーミングアップからクールダウンまで、参加者の様子に合わせたプログラム提供

#### (3) まとめ

音楽に合わせて動くことでリズムよく運動を行うことができた。また、講師の声かけにより参加者は笑顔で楽しみながら運動を続けられていた。継続の参加者に加え、新規の参加者も増え、より賑やかな教室となった。リズムよく教室が進んでいくため、本人の自覚以上に運動量が多く、体力向上に効果的な教室となっている。



### チャレンジボッチャ

#### (1) 目的 (参加人数 延べ67人)

ボッチャの基本の知識およびルール等を理解し、楽しみながら実践することにより、社会参加の促進を図るとともに、競技人口の裾野を広げる。

#### (2) 内容

- ・ウォーミングアップ
- ・レクリエーション(ボッチャビンゴ、はじきビンゴ、神経衰弱、スクエアボッチャ)
- ・ゲーム

#### (3) まとめ

各回で目標を持ち、それに沿ってレクリエーションを実施した。主に力の調整、ボールをはじく、状況に応じた戦術を立てる、の3つを目標にした。偶数月のみの実施で間が空くため、教室の始めには前回の内容を復習として取り入れ、その内容と新しいことを併せて行うことにより、参加者のステップアップにつながった。



## リズムでダンス

### (1) 目的 (受講人数 延べ 187 人)

音楽に合わせて楽しく体を動かすことで運動量を確保し、体力の維持向上と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

音楽・リズムを用いた運動・ステップ  
課題楽曲「アイドル」でダンス

### (3) まとめ

教室申込期間がセンタープール閉鎖期間であったことが原因の一つでもありと考えられるが、定員に満たなかった。その点も含め、改めて教室の実施環境や進め方、運動量の確保と個々の特性を考慮しながらの全体(全員)で課題ダンスに取り組む流れを再考したい。



## 障害者スポーツ指導支援

### (1) 目的 (受講人数 延べ 716 人)

当センターから遠隔地にある団体およびセンターを定期的に利用する施設等が実施する障害者スポーツやレクリエーション等に対して、センター指導員が指導を行い県民の健康維持・増進および余暇の充実を図るための一助とする。

### (2) 内容

#### ①療育教室

- ア 湖の子園(草津市) (参加人数 延べ 129 人)  
・プール：水慣れ、水中での体の使い方、補助方法
- イ にこにこ教室(野洲市) (参加人数 延べ 152 人)  
・プール：水慣れ、水中での体の使い方、補助方法  
・体育館(ホール)：親子でできる体の使い方、運動あそび、パラシュート
- ウ めだかの学校(東近江市) (参加人数 延べ 75 人)  
・プール：水慣れ、水中での体の使い方、補助方法
- エ くれよん(日野町) (参加人数 延べ 22 人)  
・プール：水慣れ、水中での体の使い方、補助方法

#### ②遠隔地

- ア 湖西障害者地域活動支援センターわになろう(高島市) (参加人数 延べ 142 人)  
体の使い方・補強運動、レクリエーション、軽スポーツ
- イ 湖西総合在宅サービスセンターほろん(高島市) (参加人数 延べ 58 人)  
・プール：水中歩行、リラクゼーション、泳法(クロール・背泳ぎ)  
・体育館：補強運動、レクリエーション祭り、軽スポーツ(ポッチャ)

#### ③その他

- 県立精神医療センターデイケア  
『JoySpo(ジョイスポ)』(精神障害者) (参加人数 延べ 138 人)  
ストレッチ、補強運動、軽スポーツ、レクリエーション、体力測定

### (3) まとめ

#### ①療育教室

- ・プールの活動では、受講者が安心して水慣れができるように保護者や保育士に基本の補助姿勢などを伝えるとともに水中での体の使い方や楽しみ方を伝えた。

#### ②遠隔地

- ・わになろうでは、補強運動などを行うことで運動不足解消に努めた。
- ・ほろんのプール活動では、受講者個々の希望に応じた内容を行った。  
また、レクリエーション祭りでは、様々な障害・年齢の方が集まってレクリエーションポッチャで楽しんだ。

#### ③その他

- ・JoySpoでは、受講者がやってみたいスポーツを2~3か月クールで行った。少しずつステップアップしたメニューを行い各種目受講者の上達がみられた。



## 大人の体の使い方&スイム

(1) 目的 (参加人数 延べ82人)  
皆で楽しく体を動かしながら健康維持と体力アップを目的とする。

(2) 内容  
(陸上でのトレーニング)  
各関節の動きがスムーズになるようなストレッチ  
体幹・上肢・下肢の筋力アップ  
(水中でのトレーニング)  
歩行・バランス・筋トレ  
泳ぎの基本 伏し浮き・け伸び・キック

(3) まとめ  
会話をしながらでもできる程度の運動量で、なおかつ意識して体を使えるように指導を行った。特に指先、足先に対して意識することに気がつけた。  
同じ内容を繰り返し実施していることで動きは良くなっているが、意識させるような声かけが大切である。



## ラジオ体操

(1) 目的 (参加人数 延べ1396人)  
障害のある人もない人もセンター施設を利用する前の準備運動の一つとしてラジオ体操を行い、健康の維持増進に努める。

(2) 内容  
午前の利用開始時間前にラジオ体操第一を行う。

(3) まとめ  
施設利用前の準備運動として、ほぼ毎日実施した。定期の利用者は、ラジオ体操のために早くに来所し参加されていた。参加者からは「改めてラジオ体操は良い運動になる」と気づきにもつなげることができ、職員にとっても利用者の前での見本を見せる場であり良い機会となっている。今後さらに参加者が増えるよう、声掛け等の案内に努めたい。



## 水中らくらくアドバイス

(1) 目的 (受講人数 23人)  
身体(肢体)に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かせるよう、介助者が対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。

(2) 内容  
入退水時の介助方法や受講者個々に応じたリラクゼーション、水中での介助者の補助姿勢や補助の方法、補助具の有効な使い方のアドバイス

(3) まとめ  
普段なかなか力の抜けない受講者が水の特性を生かして少しでも力が抜けるように、リラックスできるような方法や、補助具(浮き具)の使い方をアドバイスした。また、介助者にも楽な介助姿勢のアドバイスを行ったことで、双方にとって効果的な水中活動が行えた。



## 親子水泳

### (1) 目的 (受講人数 延べ126人)

障害のある小学生が水に慣れ、親子で水泳を楽しむ中で集団でのルールを身につけるとともに、泳ぎの基本姿勢や集中力を養う。

### (2) 内容

- ・水慣れ
- ・伏し浮き、背浮き等の基本姿勢
- ・水中での親の介助方法

### (3) まとめ

受講者が安心して活動できるように、スロープの近くに足がつく場所をフロアでつくる等の環境設定をして取り組んだことで、スロープでは自信を持って活動できる受講者が、徐々にスロープから離れ全体の活動に参加できるようになった。今後も受講者が安心して取り組み成長してもらえよう環境設定や親への声かけを大切に実施していきたい。



## 体の使い方 キッズ (新規教室)

### (1) 目的 (受講人数 延べ94人)

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える。

### (2) 内容

親子での活動：親子でスキンシップあそび、補強運動

並列での運動：ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ

サーキット：フープや牛乳パック、平均台、積み木、巧技台を使ってコース設定

### (3) まとめ

教室前半では、親子が触れ合いながらできる運動を行うことで、楽しみながら運動を行えた。また、自宅でも親子で行えるようなプログラムを意識し、3歳～小学2年生の体型だからこそできるスキンシップあそびを行い、自宅での活動につなげた。

サーキットでは、最初にできなかった動きが、回を重ねるごとにできることが増えていき受講者の成長が目に見えて感じられた。



## 体の使い方 ジュニア (新規教室)

### (1) 目的 (受講人数 延べ118人)

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える。

### (2) 内容

座位での運動：ストレッチ、補強運動、

フープを使った運動：片足立ち、グーパージャンプ等

並列での運動：ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、けんけん、スキップ等

サーキット：フープや牛乳パック、平均台、鉄棒を使ってコース設定

### (3) まとめ

前半の補強運動では、足首の運動や起き上がりなど、体の動きを意識して運動を行った。

受講者の実力に合わせてサーキットの種類や内容を変えていくことで、今までできなかった動きができるようになった。また、鉄棒を取り入れたことで、新しい事へ挑戦する姿が見られた。



## 卓球（初心者）（新規教室）

### （1）目 的（参加人数 延べ5人）

障害のある人がラケットの握り方など基本を学びながら卓球の楽しさを感じるとともに、社会参加の促進を図る。

### （2）内 容

- ・ラケットの握り方
- ・球出し

### （3）ま と め

参加者には、ラケットの種類から握り方までを伝えた上で、球出しをしてラケットでボールを打つ感覚を養った。その結果、複数回はラリーをつなげられるようになったが、ラリーのペースやボールの回転が少し変わると返球が難しそうだった。

今後の目標として、球出しマシンを使用してさらに参加者の打球技術の向上へつなげていきたい。



## 卓球ラリータイム

### （1）目 的（参加人数 延べ141人）

障害のある人・ない人がラリーを通して多くの人と交流する場とし、より卓球を楽しむためにラリー技術の向上を目指す。

### （2）内 容

- ・ウォーミングアップ（ストレッチと補強）
- ・1ラウンド6分間のラリー
- ・チャレンジタイム

### （3）ま と め

熱中症等の対策のため2ラウンドごとに一度休憩を入れていく構成で実施した。全12ラウンドのうち、3ラウンドほど、3分の間でどれだけラリーを続けられるかという、ラリー技術の向上を目指したチャレンジタイムを不定期で行った。その結果、チャレンジタイム中は適度な緊張感が生まれ、技術に差がある中で、相手ごとに強さやペースを合わせるなどの工夫が見られた。



## S T Tラリータイム

### （1）目 的（参加人数 延べ143人）

視覚に障害のある人同士がサウンドテーブルテニスのラリーを通して、交流を深める中で技量を高める。

### （2）内 容

- ・椅子に座って準備運動、補強運動
- ・6分サークルのラリー

### （3）ま と め

準備運動・補強運動では、ボディイメージをしっかりと伝えていくために、ほぼ毎回、理解しやすいよう同じ内容で繰り返し行った。回数を重ねるごとにスムーズにできている部分もあるが、より良いメニューの構築に努めたい。

参加者によって目的も違うため、全体に向けての細かな技量面の指導は行わず、楽しく交流できる場の提供に努め、個々のニーズに応じて対応した。徐々に参加者も増えてきているが、教室の方針自体は変えずに進めたい。



## スイム・スイム・スイム

### (1) 目的 (受講人数 延べ187人)

障害のある人が目標を持ち、練習を通じて技術を高める。  
集団活動の中で、健康の増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

初級：水慣れ、浮き姿勢、伏しキック、背キック

中級：クロール(息継ぎ、手回し、バタ足等)

上級：ストリームライン、タッチターン、50m自由形

### (3) まとめ

初級では、同じ内容を繰り返し行うことで徐々に慣れ、最終的には一人で伏しキック、背キックを行えるようになった。中級では、補助具を使用することでクロールが25m完泳できたり、泳げる距離が伸びることにつながった。上級ではストリームラインを見直したことで、泳ぎの姿勢が安定し、より進みやすくなった。今後も楽しみながら上達してもらえるような指導をしていきたい。



## 水泳選手育成

### (1) 目的 (受講人数 延べ961人)

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す選手の育成と新たな選手の発掘を行う。

### (2) 内容

陸上練習 ストレッチ：足首・肩関節

筋トレ：体幹・下肢

水泳練習 ドリル：け伸び・キック・プル

スイム：クロールを中心に四泳法

### (3) まとめ

プールを縦25mだけでなく、短距離となる横向きに使うことで、選手の泳力に差があっても同じことができ、チームとしての一体感をうみだすことができた。また、課題を意識しながら泳ぐ距離としてもちょうどよい練習となった。

受講者が多くなったことで細かな指導はできていないが、受講者全体の泳力としては上がっている。



## バスケットボール選手育成

### (1) 目的 (受講人数 延べ422人)

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成を図り、県大会出場を目指す。

### (2) 内容

準備運動：ストレッチ、柔軟

補強運動：体幹トレーニング、腹筋、

基本練習：ハンドリング、ドリブル、パス、シュート

応用練習：2メン、パスゲーム、ミニゲーム

### (3) まとめ

県大会に出場し、少しでも良いパフォーマンスができるように、バスケットの動きの練習をするだけでなく、けがをしない体づくりや体幹など体の使い方の練習も時間をかけて行った。

練習の積み重ねにより、県大会では受講者が自信を持ってプレイすることができた。



## 水泳個別アドバイス

### (1) 目的 (受講人数 延べ167人)

水慣れしていない人や、水泳経験の浅い人がそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法や泳法を取得する。

### (2) 内容

個人の目的・希望に応じた指導をおこなう。  
(歩行、水慣れ、泳法指導 等)

### (3) まとめ

前年度に引き続き、受講者の多くが幼児から学齢期で、水慣れから泳法へとつなげる部分のニーズが大半であった。

受講者の多くが継続して申し込みをしており、プールの利用促進にもつながっている。今後もさらなる受講者の増進と教室後の水泳を取り組む場としていきたい。



## 体力測定・トレーニングアドバイス

### (1) 目的 (受講人数 延べ25人)

身体障害者および精神障害者に自己の体力の現状を正しく認識して、運動習慣の大切さや体力の維持向上を図る動機付けおよび行動の変化を目的とする。

### (2) 内容

- ・身長、体重、血圧、握力、長座位体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、10m最大歩行、Timed UP Go、大腿周囲・下腿周囲の測定、体組成計による体成分分析。
- ・理学療法士によるトレーニングアドバイス
- ・管理栄養士による栄養指導

### (3) まとめ

昨年度の課題であった理学療法士と管理栄養士のアドバイスを、30分間に5人までという最大人数を設定して予約を受け付けたことで、人数が分散でき、測定をスムーズに行うことができた。また、新たに測定器具を導入したことで、測定が簡易になり、測定者の負担を減らすことにつながった。コロナ禍も明けたため、次年度からは肺活量測定も実施したい。



## 琵琶湖一周に挑戦

### (1) 目的 (参加人数 延べ666人)

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ・歩行または泳いだ距離を自己申告してもらい、その距離を個人カードに記入する
- ・毎月集計し、掲示する
- ・累計距離が琵琶湖一周(JR線換算距離178km)に達成、または年間50回以上挑戦された方を対象に授与式にて記念品等を授与する

### (3) まとめ

今年度は、11月と12月に当センタープール改修工事があったため、2か月間プールが使用できなかった。そのため50回以上挑戦の対象者を40回以上に変更して授与式をおこなった。コロナ禍が明け、参加者は大幅に増え、新規の挑戦者も増えつつあるので、その方々が琵琶湖一周、または50回以上挑戦できるように声かけ等を行いながらサポートをしていきたい。



## 日本縦断に挑戦

### (1) 目的 (参加人数 延べ76人)

エアロバイク・トレッドミル・ニューステップの運動に一定の目標を持ち、挑戦することにより体力の維持増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ・トレーニング室の機器を使って進んだ距離を個人カードに記入する。
- ・毎月集計して掲示する。
- ・累計距離が日本縦断(鉄道、新幹線、飛行機換算距離 3,418km)に達成、または年間50回以上挑戦された方に授与式にて記念品等を授与する。



### (3) まとめ

今年度は、コロナ禍が明けたことで、新規の参加者が増えた。また、継続して挑戦されている方の中には、もう少しで日本縦断を達成できそうな方もいるため、達成が近いことを伝え、継続して利用をしてもらえるようにサポートしていきたい。

## タイムトライアル

### (1) 目的 (参加人数 延べ19人)

定期的に計測することで、タイムを意識し、競技意欲を高める。飛び込む機会を持つことで技術を高める。

### (2) 内容

- ・飛び込みの練習
- ・クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ(25m.50m)  
100mリレー(フリー・メドレー)のタイム測定

### (3) まとめ

大会前のタイム確認や、飛び込み技術向上のため参加された方が多かった。飛び込みのフォームを客観的に映像で確認できるようにして、その映像を基にアドバイスを伝えたことで、自身の課題を意識し積極的に取り組むことにつながった。繰り返し練習する中で、徐々に体を伸ばして飛び込みができる等の技術向上がみられた。今後も継続的に同じ質の指導が提供できるように、担当内の飛び込みに対する指導技術の向上が課題である。



## 短期水泳（湖北・湖東）

### （1）目 的（受講人数 延べ228人）

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### （2）場 所

甲良町保健福祉センター温水プール

### （3）内 容

水慣れ（水中姿勢・呼吸法・けのび等）からレベルに合わせた集団指導。

◆小学生の部：小学生の障害者とその親

水慣れ・伏し浮き・背浮き・キック・介助法

◆中学生以上の部：中学生以上の障害者

水慣れ・基本姿勢・呼吸法・けのび・背浮き・板キック・クロール

### （4）ま と め

今年度は各部、泳力レベル別に2～3クラスを作り課題に取り組んだ。また、プール内を各クラス別で指導しやすいように指導環境の整備と赤フロアの設置レイアウトを工夫した。毎回スモールステップではあるが課題目標に取り組み、その成果の場として当センターの水泳記録会に参加され、受講者の成長を見て親も大変喜ばれていた。



## 短期水泳（湖西）

### （1）目 的（受講人数 延べ123人）

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### （2）場 所

高島B & G海洋センター温水プール

今津B & G海洋センター温水プール（高島B & G海洋センター温水プールボイラー故障のため）

### （3）内 容

・小学生の知的障害者とその親の部 水慣れ、伏し浮き、背浮きの基本姿勢とキック 等

・中学生以上の知的障害者の部 基本姿勢、板キック、クロール、背泳ぎ 等

### （4）ま と め

小学生の部では、プールで活動する中で水に慣れ、顔をつけられるようになり、親と一緒に基本姿勢がとれるようになった。中学生以上の部は泳力別に2クラスに分けた。両クラスとも基本姿勢を中心にキック、クロール、背泳ぎ等を実施し、回数を重ねるごとに繰り返す中で泳げる距離が増えていった。また、水泳記録会にも参加することを目標とし、積極的に取り組んだ。



## 地域体の使い方 キッズ（湖北・湖西）

### (1) 目的（受講人数 延べ102人）

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### (2) 場所

長浜バイオ大学ドーム

### (3) 内容

親子での活動：親子でできるスキンシップ遊び、補強運動

フープを使った運動：フープくぐり、両足ジャンプ、ぐーぱージャンプ

列での運動：はいはい、高ばい、両足ジャンプ、走る等

サーキット：フープや牛乳パック、平均台、積み木、鉄棒を使ってコース設定

### (4) まとめ

『親子でできるスキンシップ遊び』は3歳～小学2年生の体型だからこそでき、自宅でも親子でできる活動を行った。列での運動では、はいはいや両足ジャンプ等全身を使うことを意識して行った。サーキットでは、前半の動きも取り入れながら、平均台やフープ、鉄棒を使ってコースを設定し、何回も繰り返し行うことで『できた』という自信につながった。



## 地域体の使い方 ジュニア（湖北・湖西）

### (1) 目的（受講人数 延べ76人）

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会に提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### (2) 場所

長浜バイオ大学ドーム

### (3) 内容

補強運動(ストレッチ・筋トレ)

フープを使った運動(姿勢補正・バランス/体幹トレーニング)

列での運動(ハイハイ・高ばい・ジャンプ・けんけん・もも上げ等)

サーキット運動(フープ・牛乳パック・平均台・鉄棒等を組み合わせたコース設定)

### (4) まとめ

昨年度から継続の受講者や過去の教室受講者が多く、教室の雰囲気慣れていての方が多かった。個々に熱心に取り組む様子が見られ、互いに声を掛け合うなどつながりも見られた。年齢が高くなる中での精神的な揺れが見られる受講者もいたが保護者とやり取りしながら本人に寄り添い、まずは教室に来ることができたことを評価し共有した。また、バランス/体幹を意識するようなものを多く取り入れ継続して行うことで、徐々に成長する姿を見ることができた。さらに鉄棒では、全員が前転をすることを目標に頑張り、最終回では補助付きでも全員が前転をおこなうことができた。



## 親子ふれあい広場（新規事業）

### （1）目的（参加人数 1回目84人 2回目66人 延べ150人）

障害のある子どもたちが、親子での色々な活動をおして、体を動かすことの楽しさを知るきっかけづくりとする。

### （2）場所

びわこ学院大学 体育館

### （3）内容

- ・エアートランポリン、鉄棒、積み木、平均台や牛乳パック、フープを使ったサーキット
- ・親子でできる体の使い方、パラシュート



### （4）まとめ

東近江地域の療育教室通園児を対象に今年度より開催した。ワンフロアにエアートランポリンやサーキット等を設置しておくことで、全体が見渡せ、公園に遊びに行く感覚で参加できるイベントとなった。また、会場のびわこ学院大学の学生にもボランティアとして協力いただき、子どもと同じ目線で一緒に遊んでもらうことで、子どもも保護者も安心して参加することができた。また、親子でできる体の使い方では家でも簡単にできるような補強運動等を行った。

## 障害者スポーツ体験指導事業

### （1）目的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。



### （2）内容

実施日	依頼先	内容	人数
令和5年8月4日	とびら	体の使い方	15人
8月12日	わいわいサークル	体の使い方・ボッチャ	19人
8月24日	支援センター あーと	体の使い方・ボッチャ	15人
9月5日	くれおカレッジ	体力測定	17人
10月27日	東近江市立市原小学校・山上小学校 (特別支援学級 合同)	プール 水中レクリエーション	20人
11月22日	虹の会 ドリーム	ダンス・ボッチャ	29人
11月22日	滋賀県ろうあ協会	体の使い方	12人
12月7日	東近江市身体障害者厚生会	ボッチャ	55人
12月16日	障害者施設 ふるさと	プール 水中リラクゼーション	11人
令和6年1月26日	甲賀 のびのび会	ふうせんバレー	17人
2月2日	大津市立大石小学校(特別支援学級)	水慣れ・水中レクリエーション	15人
2月4日	大津障害者ホリデースクール	体の使い方・カローリング	10人
3月31日	遊☆VIVA	プール 水中リラクゼーション	21人
計 13件			256人

### 3. 文化教室

#### 茶道教室①・②

(1) 目的 (受講人数 ①68人 ②59人 延べ127人)

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しみ情操を豊かにするとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

帛紗さばき、割り稽古などの基本から、個人のレベルに添ったお点前等(裏千家)

(3) まとめ

茶道教室①は、初心者の方を対象に割り稽古から盆略点前を習得した。また、茶道教室②については経験者の方を対象に茶箱や柄杓を用いた点前の習得に努めた。

どちらの教室も回数を重ねるごとに点前が上達していく様子が見られ、教室の最終回には、①と②合同でお茶会を開き、今までの練習の成果を披露する場を設けた。

普段は顔を合わせない受講者がいたり、教室の様子が違っていることで初めは緊張感が少し漂っていたが、時間が進むにつれ、その雰囲気やお茶を楽しみながら交流する様子が見られた。



#### 絵画教室スマイル

(1) 目的 (受講人数 延べ192人)

障害のある人が、気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。

(2) 内容

①“好きなものを描こう”のテーマで、自身の描きたい作品を作成。

②仕上がった作品を発表。

③完成作品をセンター多目的ホールにて展示。

(3) まとめ

今年度も昨年度に引き続き、「自分の好きなものを描こう」をテーマに、受講者は自分の描きたいものを生き生きと描いた。毎回教室の最初に講師から作品作りのアドバイスや注意点等例を交えての説明があり、受講者は、作品に少しずつ変化を加え、回を重ねるごとにより良い作品をつくりあげることができた。また、今年度から受講者の作品を多目的ホールに展示したことで、受講者の描いた作品に多くの方が立ち止まり、興味を持って鑑賞され、教室PRの一助となった。



#### フラワーアレンジメント教室

(1) 目的 (受講人数 延べ94人)

障害のある人がフラワーアレンジメント教室に参加し、花に親しみ、楽しみながら、フラワーアレンジメントを学び、情操を豊かにするとともに受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

10月 ハロウィン 11月 クリスマスツリー

12月 お正月 1月 春

2月 バレンタイン

(3) まとめ

講師の見本を参考に、受講者自身の感性を大切にしながら取り組んだことで、型にはまらない個性的な作品ができた。今年度は完成した作品を1か所に集めて、みんなで鑑賞したことで作品の感想を言い合う等会話が弾み、交流のきっかけになった。



## ガーデニング教室

### (1) 目的 (受講人数 延べ18人)

季節折々の植物を使って楽しみながら寄せ植えをしてその出来栄を愛で、情操を豊かにするとともに、受講者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ・季節の植物を使った寄せ植えをつくる  
(タイム、ユーフォルビア、ケイトウ、サルビア、ダリア、リシマキア、ペチュニア、ジャスミン、ヘンリーツタ、ラベンダー 以上10種類)
- ・作品の発表

### (3) まとめ

毎年楽しみに申込をされる受講者も多く、平成20年から続いている人気の教室である。鉢に入りきらないほどたくさんの種類の植物を使って、受講者の笑顔とともに豪華な寄せ植えを作る。顔見知りになった受講者同士が助け合い、励ましあいながら、親睦を深めている。



## 手作り体験教室 (ハーバリウム) (新規教室)

### (1) 目的 (受講人数 延べ20人)

障害のある人が、流行りのインテリアフラワーとして人気の高いハーバリウムを楽しみながら体験し、作品をつくとともに、障害者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ・ハーバリウムの作品をつくる。
- ・材料を選ぶ、構図を考えることや作ることを楽しむ。
- ・作品の発表

### (3) まとめ

定員を超える応募があり、ハーバリウムの人気の高さがうかがえた。作る過程を通して、受講者同士の会話もはずみ、交流が深まった。

視覚障害のある受講者からは、「会場を明るくしてほしい」という意見があった。今後は、事前に聞き取りを行い、個別照明を準備する等の配慮をして対応していきたい。



## お正月生け花教室

### (1) 目的 (受講人数 延べ21人)

障害のある人が生け花教室に参加して、季節の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加への促進を図る。

### (2) 内容

- ・花材等、講師が見本を生けながら説明
- ・講師の見本を参考に花を生ける
- ・講評と質疑応答

### (3) まとめ

最初に花の配置や高さ等の注意点を図で示しながら説明したことで、受講者からは「わかりやすかった」と評価を得ることができた。また、1人ずつアドバイスをしながら丁寧に関わったことが受講者の満足度の高さにつながった。アンケートで人との交流に課題があったため、今後は完成した作品を受講者同士が鑑賞する時間を設ける等交流ができる場を作っていきたい。



## 手作り体験教室（マクラメブレスレット）（新規教室）

### （1）目的（受講人数 延べ14人）

障害のある人が、身近な材料である紐を手で編む「マクラメ」を楽しみながら体験し、作品をつくるとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### （2）内容

- ・マクラメブレスレットの作品をつくる  
（紐や糸を手で編み、結び目をつくることでスパイラル模様をつくり、パワーストンを途中で編みこむ）
- ・作品の発表

### （3）まとめ

「難しい思いをしたが、やってみたら楽しかった」というアンケート結果のように、最後までやり遂げ、自分だけのブレスレットをつくることのできた達成感から満足度は高かった。

「マクラメ」という言葉からイメージが湧きにくかったようで、見本を受付に置くなど対策を講じたが、募集定員を割ることとなった。



## 地域文化教室

### （1）目的（受講人数 延べ79人）

当センターにおいて開催している文化教室を遠隔地の障害のある方に対し、在勤地近隣で開催することにより県民サービスの均一化を図るとともに、受講者同士の交流と社会参加を促進する。

### （2）内容

- ・プリザーブドフラワー教室（湖南福祉圏域）
- ・アロマワックスサシェ教室（湖東福祉圏域）
- ・かんたん押絵教室（湖北、湖西、湖南、東近江、大津福祉圏域）

### （3）まとめ

滋賀県下7福祉圏域に出向く文化教室を開催して15年目となり、教室を通じて社会参加の機会を提供している。年を重ねるごとに各地域との繋がりも深まっている。



## 4. 更生相談

### 医療相談

#### (1) 目的 (相談人数 延べ36人)

リハビリや運動をする際に抱える不安や疑問を医師や理学療法士が医学的な立場から障害の状態に応じたアドバイスをを行い、自身の健康管理、体力の維持および社会参加の促進を図る。

#### (2) 内容

実施内容

- ・相談内容の把握(申込用紙)
- ・問診等による各種チェック(障害内容・既往歴・現病歴・健康状態等)
- ・相談日時の調整およびスタッフへの連絡

相談内容

- ・日頃感じている身体の症状や日常生活での不安について
- ・リハビリや運動する際の注意事項
- ・施設でできる具体的なリハビリ内容や自宅でできる個別のリハビリメニュー
- ・就労後のリハビリについて

#### (3) 総 評

コロナ禍のため来所できなかったことで運動量が減り筋力の低下や生活動作に支障がある人の相談が多かった。相談しやすい雰囲気や時間が十分にとれたことで相談者からは、医師や理学療法士からの確かなアドバイスを得ることができたとの意見があった。また、就労後もリハビリが継続できるか不安を抱えていたが解消され、リハビリ再開に繋がった相談者もいた。

相談者数が減少傾向にあることが課題であったが、新規の利用者への声掛けや普段の利用者へのかかわりの中で職員同士が連携をとり利用者の現状を把握して相談者を増やしていくことが必要である。



### 理学療法士によるリハビリ相談

#### (1) 目的 (相談人数 延べ32人)

理学療法士の立場から、障害の状態に応じたリハビリの指導・助言を行い継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるきっかけづくりとする。

#### (2) 内容

- ・リハビリ実施状況の確認
- ・リハビリ内容の相談
- ・現状の身体評価および具体的なリハビリ指導  
(プール・トレーニング室)

#### (3) ま と め

相談者は、日頃実施しているリハビリ内容の再確認をする人が多く、自己流で誤ったリハビリのやり方を指摘されて内容を見直した人もおられた。また、遠方のため自宅でリハビリをしていた人は向上心から追加のリハビリの指導があった。リハビリ内容を定期的に再評価することで継続して効果的なリハビリにつなげることができた

一度相談を受けられた人からはニーズの声がある一方、障害が重度の人ほど相談件数が少ないことが課題であり、利用者の状況把握をしながら日々のリハビリに不安のある人に声掛けをしていく。



## アドバイスタイトム水中歩行

### (1) 目的 (参加人数 延べ194人)

水の特性である、浮力・抵抗・水圧を活かし、水中での歩行や運動を通してリハビリテーションの効果を高めるとともに体力の増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ・理学療法士による水中でのアドバイス
- ・指導員による水中での歩行動作の確認
- ・看護師による問診およびメディカルチェック

### (3) まとめ

毎回5人程度の定着した参加や、継続での取り組みがほとんどで、新規の参加者の減少が目立った。コロナ禍とコロナ後での参加人数に変化がなく、コロナ禍による生活習慣の変化等が一つの要因になっていると考えられる。今後は以前からの参加者の状況把握と新規の参加者の継続への取り組みを強化していく。



## 理学療法士による障害別水中運動

### (1) 目的 (参加人数 延べ41人)

理学療法士の専門的な立場から各障害別に応じた水中での指導を行いより効果的な水中運動を身につける。

### (2) 内容

水中での障害別指導

- ・重度障害 ※未実施
- ・脳血管障害
- ・関節障害

### (3) まとめ

障害に特化した水中での指導では、関節障害者対象の開催が大半を占めた。重度障害は参加者がおられず開催できなかった。また、脳血管障害の参加者が少なかったことも課題であった。

関節障害者の参加者は交流や情報交換の機会にもなりお互いが刺激を受けて水中運動の効果を実感された。

今後は重度障害者や脳血管障害者のニーズや利用しやすい条件を整えていく必要がある。



## 地域支援 楽しく笑顔でリハビリ

### (1) 目的 (受講人数 延べ80人)

地域において、パーキンソン病の人に軽スポーツやレクリエーションなどを通じて身近な場で交流できる機会をつくり、より充実した生活が送れることを目的とする。

### (2) 内容

- ・高島保健所(ボッチャ・体操等)
- ・東近江保健所(ボッチャ体験)
- ・甲賀保健所(風船バレー・グラウンドゴルフ・ボッチャ)

### (3) まとめ

目標としていた7圏域での開催はできず、難病担当者会議等において意見や情報交換の場を設け保健所との連携をすすめてきたが定着している3圏域での開催となった。

今後は地域での連携をどのように継続していくのかが課題である。

保健所との連携のみでなく難病支援センターや全国パーキンソン病滋賀県支部や各地で開催しているのびのび会(パーキンソン病患者会・家族会)にも働きかけ、地域でできるパーキンソン病に特化した利用の場を増やしていきたい。

## 5. 養成研修事業

### 施設でできる簡単トレーニング&レク（新規事業）

#### (1) 目的（受講人数 延べ7人）

施設で暮らす・利用する人たちに日々できる簡単なトレーニングや道具・ルールを工夫し、楽しめるレクリエーションや軽スポーツをセンター職員から提案し、ノウハウを伝え各現場に持ち帰り、施設内での障害者の交流や活動に活かしてもらおう。



#### (2) 内容

- ①参加施設の現状と課題の聞き取り・共有
- ②施設でできる簡単トレーニング(椅子に座ってできるトレーニング)
- ③新聞紙・カラーテープで作るポッチャボール  
作成したボールでスローイングビンゴ
- ④風船バレーボール

#### (3) まとめ

重度障害者への指導への足掛かりとして、入所施設・作業所の職員向けに、施設であるものや施設内の少しのスペースで日々行うことができるトレーニングとレクリエーションを紹介した。受講施設は全5施設と反応は少なかったが、長浜市や高島市等遠方の施設や、入所施設からの受講があった。受講施設からは、職員体制等の影響から、日々の運動の提供自体が難しいとの課題が上がった。受講者からは、「このようなことが運動につながるがよくわかった」「身近なものを工夫することで面白いゲームができることが知れて良かった」との声をいただいた。今後の事業展開として、指導員が希望施設へ赴いての指導を検討している。

### 健康と体に関する学習会

#### (1) 目的（受講人数 延べ30人）

中高年者の健康の維持増進につなげるためにからだに関する知識を学び、日常の生活を見直し自身の健康について振り返り、実践につなげる。



#### (2) 内容

第一回：ぐっすり眠れる最適な睡眠環境のとのえ方  
講師 立命館大学  
理工学部 准教授 岡田 志麻氏

第二回：水の力を借りて運動してみよう！  
講師 びわこリハビリテーション専門職大学  
リハビリテーション学部 講師 池谷 雅江氏

第三回：オーラルケアが健康づくりにつながる！？  
講師 大津市民病院  
歯科口腔外科 歯科衛生士 山本 伸子氏

#### (3) まとめ

今回の内容は、前年度までのテーマで人気のあったものを取り上げ、以前の振り返りに加え、新しい情報を入れ込む形で実施した。しかし、以前と同じ内容である印象を受講者に抱かせたため、今後は、テーマの記載を工夫する必要がある。

受講者は、内容自体に寝耳に水な情報が多かったという声があり、体験型の内容でもあったため、高い満足度を得ることができた。次年度も、受講者を増やす方法や、より身近に“健康”を感じていただけるテーマを検討していきたい。

## 障害に関する学習会

### (1) 目的 (受講人数 延べ48人)

「障害」についての理解を個々の立場で深めることで、より良い共生社会の構築に寄与するために開催する。

### (2) 内容

講義「発達障害について」

～知って得する関わりのポイント～

講師：滋賀県立精神医療センター

地域支援部 社会復帰支援部

係長 渡部 良子 氏



### (3) まとめ

今年度はテーマを発達障害とし、その中でも当事者と関わる際のポイントに絞った学習会を開催した。障害の概要から、受講者各自が想像できるよう場面ごとに、講師の実践を踏まえての事例等を用いた講義は受講者に大変好評であった。また、今年度より滋賀県パラスポーツ指導者協議会に登録のパラスポーツ指導員への周知をしたところ、多くの方から申し込みをいただき、定員を拡大して開催をした。日頃から障害のある人と関わる場面の多い方にはより実践に活かせる知識を得る場として、関わりの浅い方にとっては見識を深める場として受講いただけたことがアンケートで伺うことができた。

## 6. 共催事業

### バスケットボール強化練習会

### (1) 目的 (受講人数 延べ115人)

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の育成と強化を行う。

### (2) 協力

一般社団法人 滋賀県バスケットボール協会

### (3) 内容

- ・基本練習：パス、ドリブル、シュート
- ・応用練習：対人練習、ミニゲーム

### (4) まとめ

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の育成のため、県内の各チームから男子・女子ともに選抜された選手が集い、練習を行った。

前半は技術・戦術練習を行い、後半は、ゲーム形式で実践を行った。本番さながらのスピードと緊張感を保ちながら練習に取り組めた。



## パーキンソン病 リハビリ大会

### (1) 目的 (参加人数 延べ99人)

パーキンソン病患者が一同に集い、リハビリテーションやレクリエーションなどを通じて交流を図るとともに、参加者同士の情報交換の場とする。

### (2) 協力

- ・全国パーキンソン病友の会 滋賀県支部
- ・滋賀県難病相談支援センター

### (3) 内容

- ・卓球
- ・グラウンドゴルフ「目指せ・ホールインワン」
- ・リハビリ相談(起き上がりの動作・歩行などの基本動作や日常生活で悩んでいることの相談)
- ・ロック・ステディ・ボクシング  
(パーキンソン病に特化したボクシングセラピー)

### (4) まとめ

2年ぶりの開催となり締め切りを待たずに定員になるほどニーズが高かった。参加者には身体を動かすことの楽しさ、人と交わることの大切さを実践を通じて感じてもらった。

暑さ対策をとりながらの開催となったが体調が悪くなった参加者はおられず無事に終ることができた。今後は、開催時期についての検討が必要である。



## 滋賀ダイハツアリーナコラボイベントふれあいひろば (新規事業)

### (1) 目的 (参加人数 延べ160人)

障害のある人もない人もともに集い、親子・グループで参加し楽しく体を動かし楽しいひと時を過ごす。

### (2) 主催

滋賀ダイハツアリーナ

### (3) 共催

滋賀県立障害者福祉センター

### (4) 内容

エアートランポリン、車椅子体験、鉄棒積み木、パラバルーン、ディスクゲッター

### (5) まとめ

2022年12月にオープンした滋賀ダイハツアリーナと共催で『ふれあいひろば』を実施した。土曜日開催ということもあり親子よりも放課後等デイサービスでの参加が多くみられた。また、当センターを利用されていない方々も多くおられ当センターを知っていただく良い機会となった。

施設も近いため、今後もコラボイベントとして継続していきたい。



## 7. 自主事業

### (1) 目的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

### (2) 内容

- ①水泳個別アドバイス 0人
- ②タイムトライアル 58人
- ③地域支援 障害者スポーツ福祉体験指導事業

実施日	依頼先	内容	人数
令和5年5月24日	草津市立発達支援センター 湖の子園	介助方法と水泳指導の基本	15人
令和6年2月8日	学校法人聖パウロ学園 光泉カトリック中学校	ボッチャ	77人
計			92人

### (3) まとめ

今年度も3つの自主事業を展開した。障害のある人が優先的に予約できるシステムのため枠があまり確保できていない状況であったこともあり、水泳個別アドバイスは申込みがなかった。ニーズはあるが、周知を検討する必要がある。タイムトライアルでは、大会直前に開催していることや飛び込み練習のニーズが高いことから、多くの参加があった。障害者スポーツ福祉体験指導事業では、コロナ禍で依頼が減ったが、明けたことで今後増加すると予想されるが、周知にも工夫していく必要がある。

## II 登録ボランティア

- (1) 令和5年度 ボランティア登録状況 登録者数 48人 (更新 43人 新規 5人)  
 (2) 行事開催事業協力者一覧 延べ 全**106**人

事業名	協力人数
オープンアリーナ	12人
オープンプール	2人
お楽しみ緑日	35人
レッツイベント!	13人
障害者啓発イベント 清掃	11人
クリスマスイベント	13人
水泳記録会	13人
ボッチャ交流大会	7人

- (3) スポーツ指導事業・文化教養向上事業・養成事業協力者一覧  
 スポーツ指導事業 延べ 全**110**人

事業名	協力人数
アクアビクス	1人
チャレンジボッチャ	17人
グラウンドゴルフ定例会	24人
大人の体の使い方&スイム	12人
親子水泳	5人
卓球ラリータイム	44人
スイム・スイム・スイム	1人
体力測定・トレーニングアドバイス	6人

- 文化教養向上事業 延べ 全**30**人

事業名	協力人数
茶道教室①	8人
茶道教室②	8人
フラワーアレンジメント教室	8人
ガーデニング教室	1人
手作り体験教室(ハーバリウム)	2人
手作り体験教室(マクラメブレスレット)	2人
お正月生け花教室	1人

- 養成事業 延べ 全**9**人

事業名	協力人数
障害に関する学習会	9人

### Ⅲ お客様アンケート調査

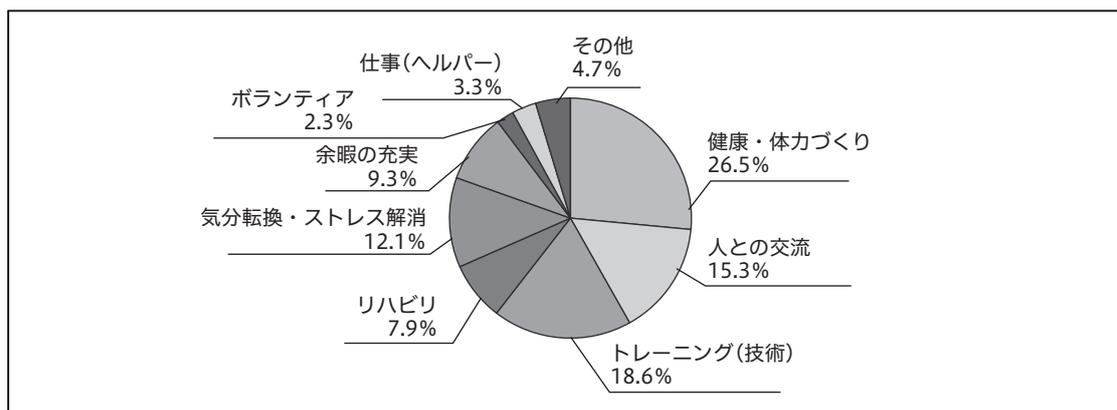
アンケート実施期間：令和6年1月6日(土)～2月18日(日)  
 回答件数104件

当センターが行っているスポーツ・文化等の事業や受付窓口の対応などのサービスについて、利用者の皆様から評価やご意見をいただき、より良い施設運営とサービスの向上に努めることを目的として「お客様アンケート調査」を実施した。

#### 回答者の属性

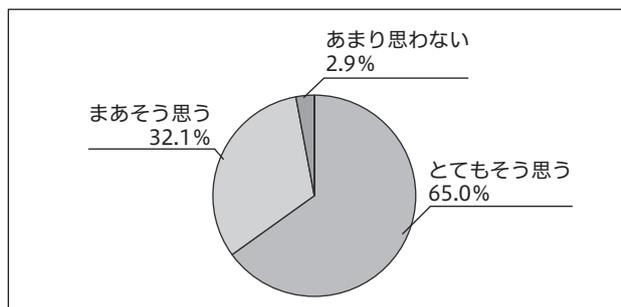
①年齢	20歳未満	8人	20歳以上	10人	30歳代	15人	40歳代	14人	50歳代	17人	60歳代	20人
	70歳代	18人	80歳以上	3人	無回答	0人						
②障害区分	視覚	10人	聴覚	2人	肢体	23人	内部	5人	知的	23人	精神	6人
	情緒	2人	介助者	21人	一般	22人	その他	3人	無回答	0人		
③使用する施設	アリーナ	44人	小アリーナ	23人	プール	51人	トレ室	17人	会議室	7人	和室	2人
	射場	2人	その他	1人	無回答	0人						
④時間帯	午前	48人	午後	62人	夜間	30人	無回答	1人				
⑤頻度	ほぼ毎日	2人	週1～2	39人	月1～2	46人	その他	15人	無回答	2人		

#### 当センターを利用する目的をお聞かせください。(複数回答可)

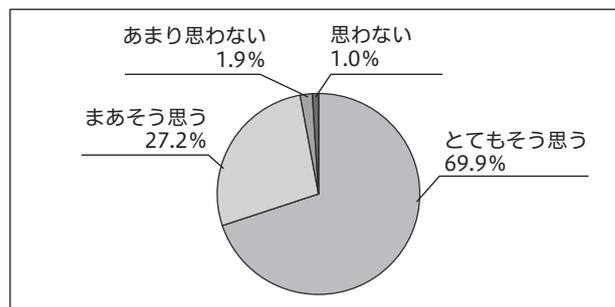


#### 職員について

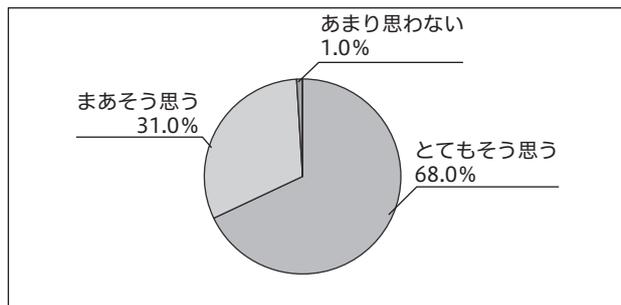
①受付での施設の利用方法に関する説明・対応は分かりやすい



②各施設における職員の対応や指導は分かりやすい

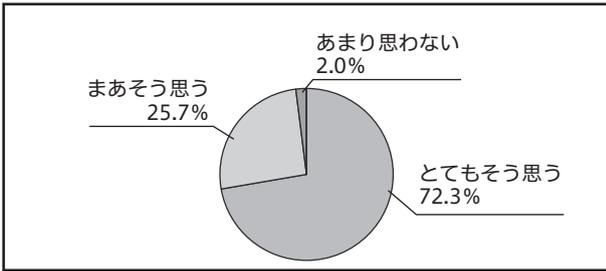


③利用者の個人情報は守られている

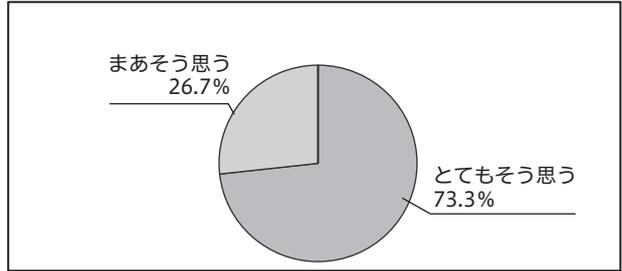


## 施設環境について

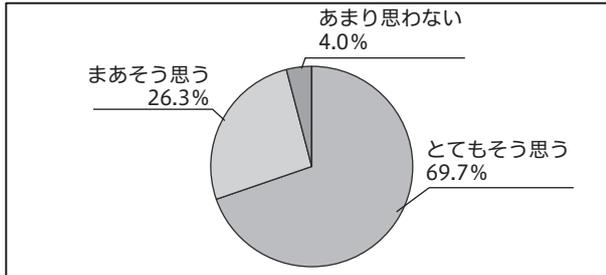
①館内は使いやすく整備されている



②館内は清潔に保たれている

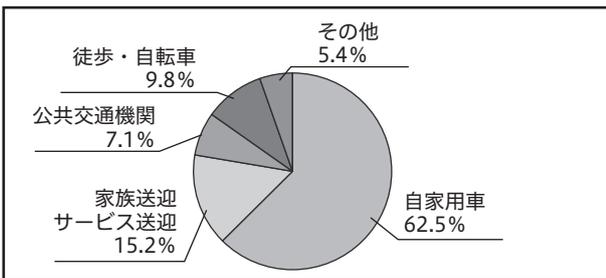


③館内の掲示物は見やすく整理されている

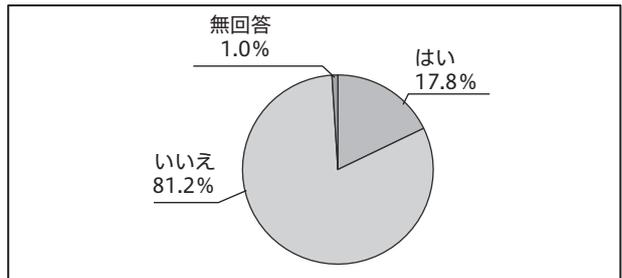


## 当センターまでの移動手段・周辺環境について

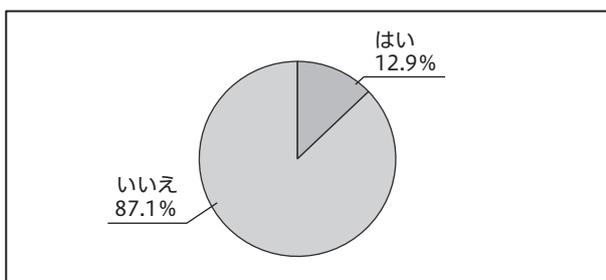
①当センターまでの移動手段は何ですか？



②当センターまでの移動手段でお困りのことはありますか？

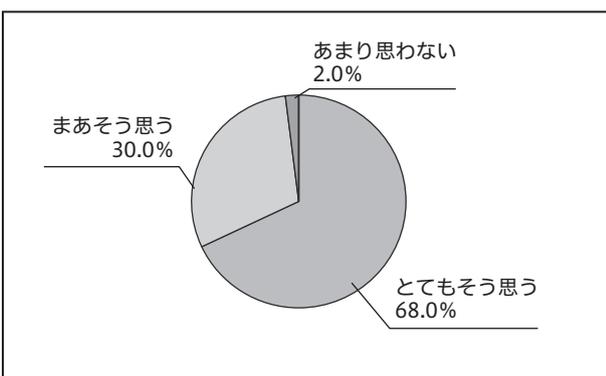


③当センターの周辺環境(駐車場・歩道・照明等)でお困りのことはありますか？



## 総合的評価について

①当センターは良いサービスを提供している



### 総 評

アンケート調査の結果については、ほとんどの項目で良い評価をいただくことができた。いただいたご意見の中で、すぐに対応可能なものについては対応をした。また、アクセス及び周辺環境については、現在の利用者からの意見ではあるが、率直な意見が多数寄せられ、改めてセンターまでのアクセスの課題が多くあることが分かった。

## IV 広報・啓発

### (1) 目的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

### (2) 内容

#### ①印刷物

・「センターだより」年4回各	7,500部	・「令和4年度年報」	200冊
・「事業案内ポスター」B2	300枚	・「事業案内チラシ」A4	13,000枚
・「利用カレンダー」ポケットサイズ	3,000枚	・利用のてびき	2,000枚
・「点字版 利用カレンダー」	15部	・「音声版 利用カレンダー」	15部
・「点字版 事業案内チラシ」	15部	・「音声版 事業案内チラシ」	15部
・「点字版 利用者アンケート」	10部	・「音声版 利用者アンケート」	10部

#### ②広報

行事、教室、事業等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要や施設の予約状況等最新の情報と新たに「令和4年度の年報」をホームページに掲載し、音声読み上げソフトに対応できるよう改修した。なお、新型コロナウイルス感染症に伴うセンターの利用制限や事業、教室の変更等についてもホームページや館内への掲示等で周知に努めた。

#### ③情報提供

来所者のふれあいの場(ラウンジ)に新聞、月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供した。(新型コロナウイルス5類移行に伴い書棚を開放)館内はWi-Fi環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

#### ④広聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

#### ⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

- ・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ課、国スポ/障スポ大会課
- ・県内保健所(7か所)
- ・滋賀県立小児保健医療センター
- ・特別支援学校(16学校)
- ・県内市町支所障害福祉担当課
- ・県内市町療育センター
- ・滋賀県障害者スポーツ協会
- ・滋賀県スポーツ協会
- ・草津市立障害者福祉センター
- ・滋賀県立リハビリテーションセンター
- ・滋賀県立精神医療センター
- ・県内市町障害福祉担当課(19市町)
- ・県内市町社会福祉協議会
- ・県内市町教育委員会(19市町)
- ・滋賀県立視覚障害者センター
- ・彦根子ども家庭相談センター
- ・大津市立障害者福祉センター 等

# V. 会議等

## (1) 福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

### 運営協議会委員

選出母体	役職名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	大西 孝雄
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	副会長	新田 正紘
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	崎山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	法人本部長	大瀧 幸夫
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	加藤 善彦
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	専従職員兼理事会事務局次長	野田 淳子
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	理事長	前野 奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪 博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	事務局長	吉田 洋
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	福祉用具センター参事	谷 佳代
一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会	専務理事	中島 義基
滋賀県児童成人福祉施設協議会	監事	吉田 和浩
滋賀県特別支援教育研究会	自閉症・情緒障害教育研究部会長	今井 俊彦
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	草津養護学校長	稲葉 芳子
滋賀県立リハビリテーションセンター	事業推進係長	田所 愛理
滋賀県立精神医療センター	院長	大井 健
滋賀県立むれやま荘	所長代理	飯田 尚樹

### 運営協議会開催状況

開催年月日	審議事項
令和5年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度事業実施結果について</li> <li>令和5年度事業実施状況、施設管理運営状況について</li> <li>施設設備の改修工事について</li> </ul>

## (2) 福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員を設置している。

### 第三者委員

機関・団体	役職名	委員氏名
同志社大学	中立的立場 助教	河西 正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表 監事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表 理事長	崎山美智子

### 第三者委員会開催状況

開催年月日	審議事項
令和6年2月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度苦情、意見等の対応状況について</li> <li>「お客様アンケート調査」の結果について</li> <li>トランスジェンダーのご利用者様について</li> </ul>

## Ⅵ. 研修状況等

### (1) 研修受講等

#### ①資格取得：初級パラスポーツ指導員

研 修 名	実施月	主 催 者	受講者数
職員研修 消防設備点検	4月	当センター	17人
職員研修 水泳学習会	4月	当センター 業務課	5人
職員研修 心肺蘇生法・AED	5月	当センター	17人
職員研修 水泳研修	5月	当センター 業務課	6人
職員研修 就業規則	6月	当センター	16人
日本赤十字社 救急法	6月	日本赤十字社 滋賀支部	1人
全国スポーツ施設研究協議大会	6月	日本スポーツ施設協会	1人
初級パラスポーツ指導員養成講習会	7月	滋賀県障害者スポーツ協会	1人
職員研修 情報セキュリティ	11月	当センター	16人
全国障がい者スポーツセンター連絡協議会	11月	日本パラスポーツ協会	4人
職員研修 スポーツ吹き矢	1月	当センター	16人
職員研修 人権研修パワハラ防止研修	2月	当センター	17人
職員研修 消防訓練(火災)	3月	当センター	17人

13件 延べ134人

#### ②県障害者スポーツ協会事業への派遣

内 容・場 所	期 日	人 数
滋賀県障害者スポーツ大会 水泳競技(当センター)	10月15日	2人

#### ③全国障害者スポーツ大会（鹿児島県）

合宿・練習会・大会に陸上競技役員コーチとして1人派遣

### (2) 研修生（実習）の受け入れ状況

#### 目 的

実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

学校・施設	人 数	期 間
滋賀医科大学医学部医学科(早期体験実習)	3人	令和5年9月13日～9月15日

## VII クラブ活動

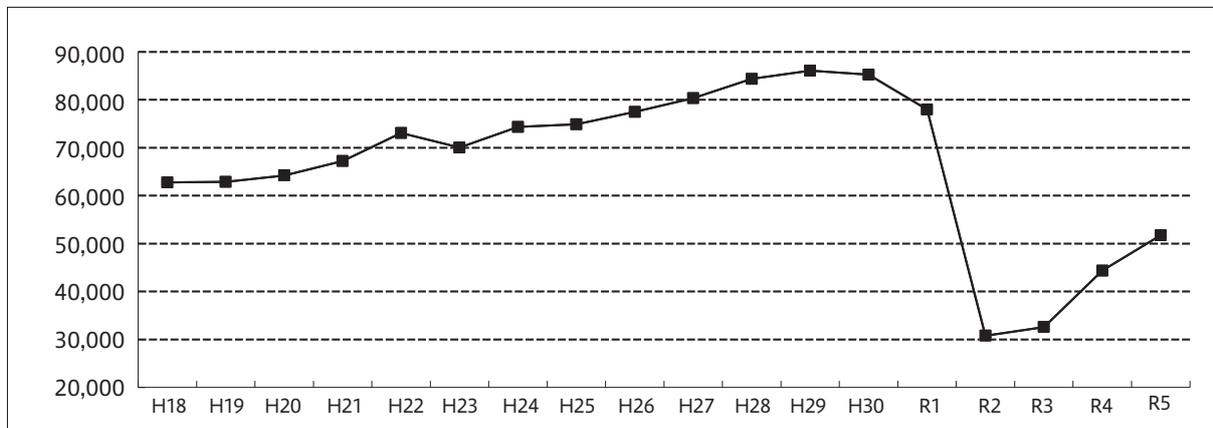
No.	登録クラブ名	当センターでの主な活動内容
1	輪悠会（股関節障害者 水泳）	金曜日の午前練習
2	トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
3	LAKE SHIGA BBC （車椅子バスケットボール）	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
4	滋賀県ろうあ協会 卓球部	土曜日の夜間練習 各大会参加
5	滋賀県HITTOアーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
6	滋賀車いすテニスクラブ	土曜日の夜間練習 各大会参加
7	滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日・金曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
8	レイク・イーグルス （電動車椅子ホッケー）	金曜日の夜間練習 交流試合実施
9	びわこ卓球クラブ	月1回土曜日の午後練習 大会主催
10	グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
11	ホワイトドラゴンズ （精神障害者ソフトバレーボールクラブ）	土曜日の夜間練習 各大会参加
12	M. S. T（車椅子卓球）	火曜日・水曜日・土曜日・日曜日の夜間練習 各大会参加
13	フォルティス滋賀（ボッチャ）	火曜日・木曜日・金曜日の夜間練習 各大会参加

# Ⅷ 利用状況

## 概要

令和5年度の当センター利用は、開所日282日で延べ人数51,727人となり、延べ累計人数は2,099,353人となった。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から「5類感染症」に移行され、利用人数などの制限や感染症対策を徐々に緩和した。利用者数は回復してきているが、入所施設や作業所からの利用が戻っていない状況である。

## 年度別利用者数

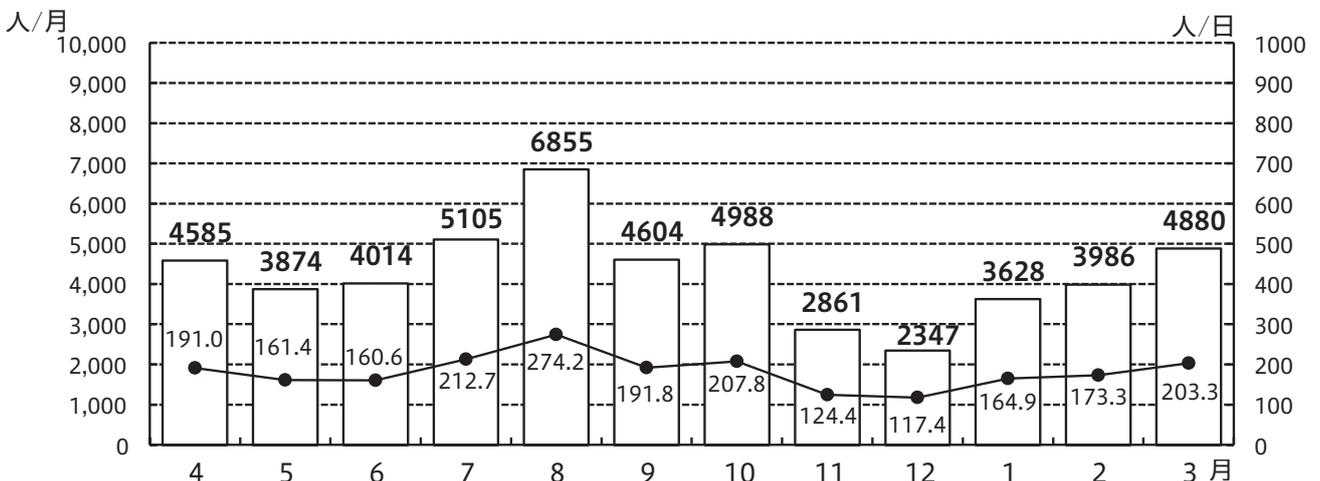


年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数
H2	29,454人 <sup>※1</sup>	H11	65,934人	H20	64,231人	H29	86,091人
H3	54,302人	H12	65,877人	H21	67,227人	H30	85,248人
H4	57,264人	H13	62,747人	H22	73,063人	R1	77,991人 <sup>※3</sup>
H5	54,889人	H14	60,325人	H23	70,035人	R2	30,770人 <sup>※3</sup>
H6	52,373人	H15	61,378人	H24	74,331人	R3	32,591人 <sup>※3</sup>
H7	53,751人	H16	60,179人	H25	74,897人	R4	44,341人 <sup>※3</sup>
H8	48,350人 <sup>※2</sup>	H17	64,297人	H26	77,487人	R5	51,727人
H9	52,743人	H18	62,770人	H27	80,350人		
H10	55,086人	H19	62,867人	H28	84,387人		

※1 開所月(8月)からの利用人数      ※2 病原性大腸O-157感染防止のためプール閉鎖  
 ※3 新型コロナウイルス感染症による臨時閉所や利用制限

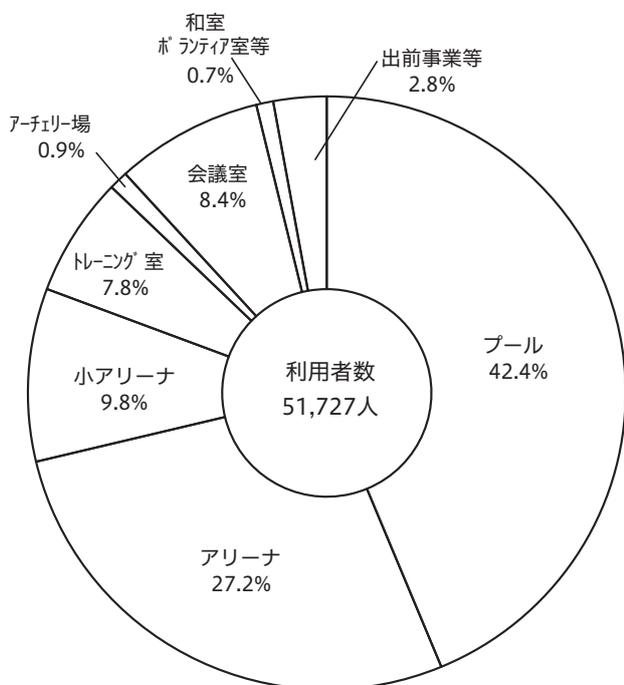
## 月別延利用状況および1日平均利用者数

利用状況は、新型コロナウイルスの影響によりコロナ前(平成30年度)と比べ60.6%にとどまっている。また、今年度は、ボイラー等の改修工事のため11月・12月のプールのみ閉鎖している。最も多い月は、8月の6,855人、最も少ない月は12月の2,347人(11月1日から12月26日プールのみ閉鎖)となっている。また、1日当たりの平均利用者は、年平均で183.4人、8月が最高の274.2人となっている。



## 施設別利用状況

施設利用状況をみると、プール21,931人(42.4%)が最も多く、アリーナ14,104人(27.2%)、小アリーナ5,052人(9.8%)の順となっている。これを個人・団体別にみると、個人利用では、プール14,637人(77.0%)、トレーニング3,970人(20.9%)、となり、団体では、アリーナ14,041人(45.0%)、プール7,294人(23.3%)、小アリーナ5,010人(16.0%)の順となっている。

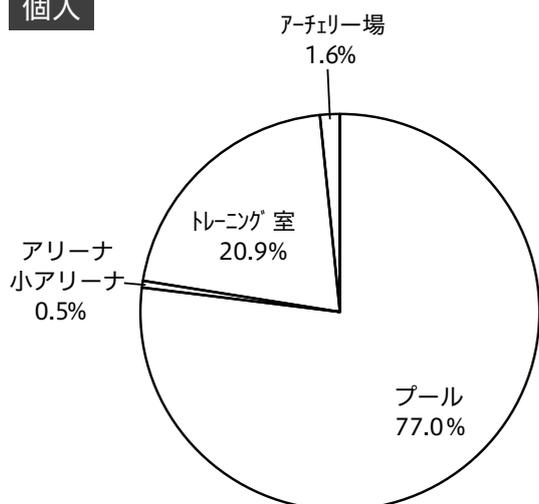


(単位：人)

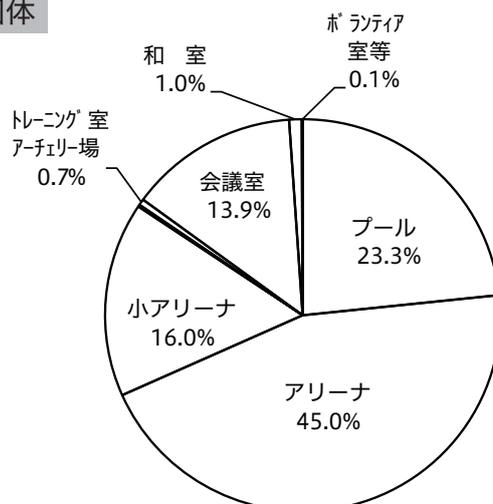
施設	利用者数	利用割合
プール	21,931	42.4%
アリーナ	14,104	27.2%
小アリーナ	5,052	9.8%
トレーニング室	4,023	7.8%
アーチェリー場	463	0.9%
会議室	4,329	8.4%
和室	320	0.7%
ボランティア室等	23	0.7%
出前事業等	1,482	2.8%
合計	51,727	100.0%

## 個人、団体別利用状況

### 個人



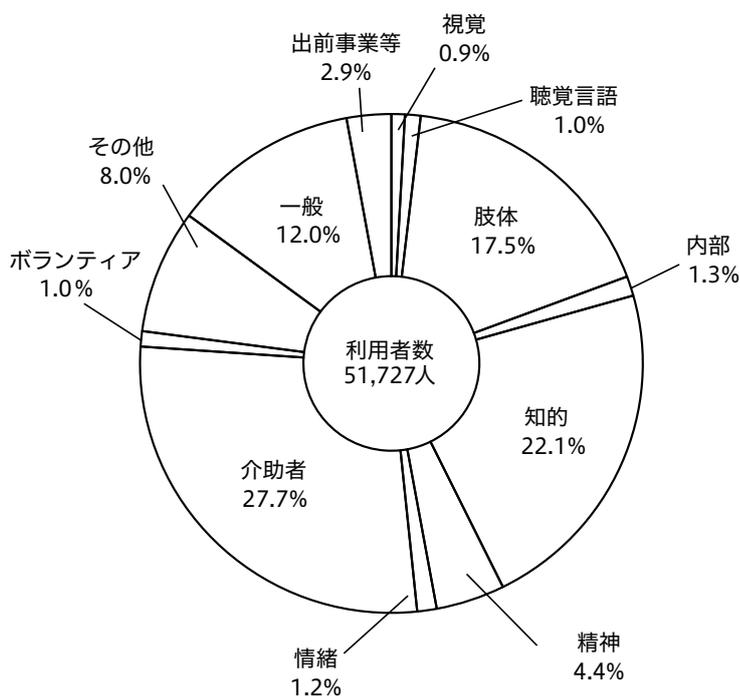
### 団体



(単位：人)

	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和室	ボランティア室等	合計
個人	14,637	63	42	3,970	305	0	0	0	19,017
団体	7,294	14,041	5,010	53	158	4,329	320	23	31,228

## 障害別等利用状況

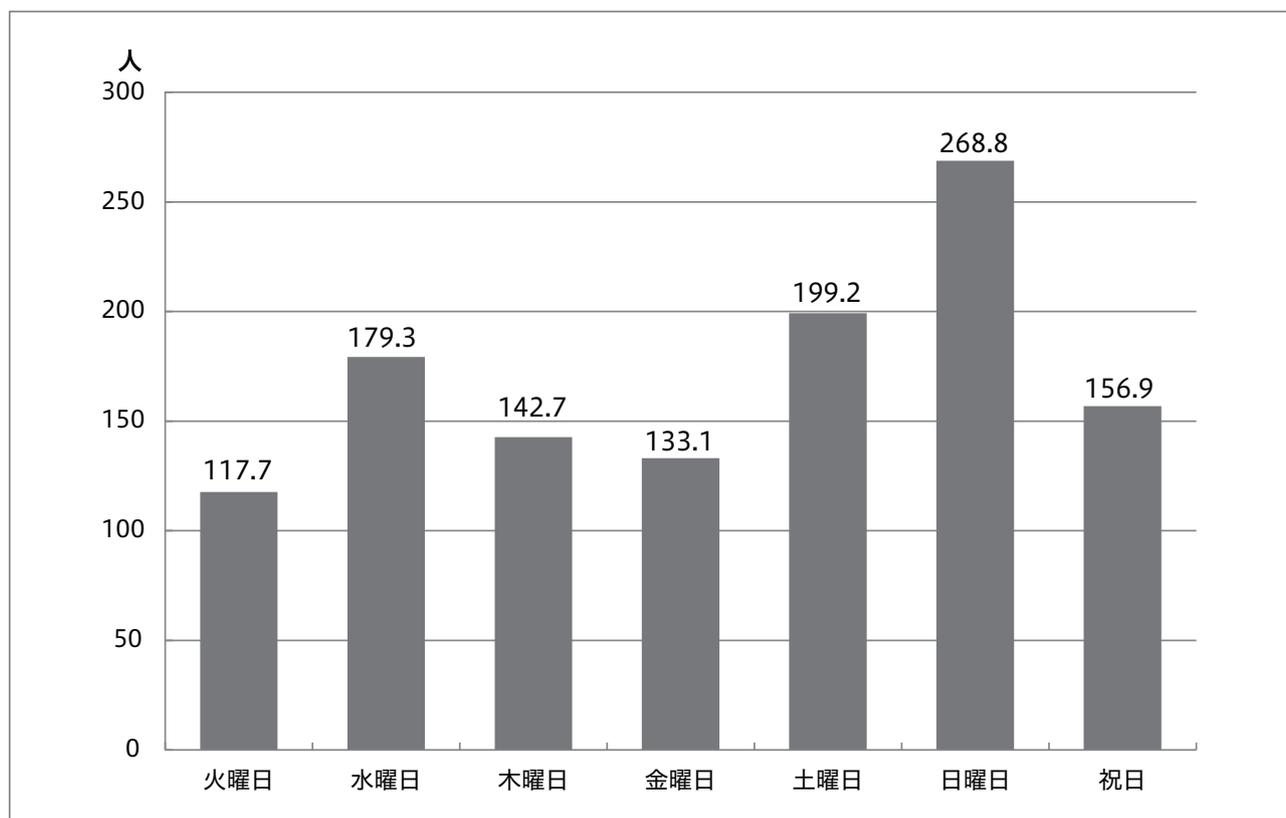


(単位：人)

障 害 等	利用者数	利用割合
視 覚	444	0.9%
聴 覚 言 語	521	1.0%
肢 体	9,037	17.5%
内 部	659	1.3%
知 的	11,416	22.1%
精 神	2,291	4.4%
情 緒	648	1.2%
介 助 者	14,339	27.7%
ボ ラ ン テ ィ ア	513	1.0%
そ の 他	4,152	8.0%
一 般	6,225	12.0%
出 前 事 業 等	1,482	2.9%
合 計	51,727	100.0%

## 曜日別平均利用状況（1日当たり）

曜日別の1日当たりの平均利用状況を見ると、日曜日 268.8 人、土曜日 199.2 人となっている。



地域別・障害別利用状況(実人数)

障 害	個 人													利 用							貸 切 り							利 用		合 計
	大 津 市	彦 根 市	長 浜 市	近 江 八 幡 市	草 津 市	守 山 市	栗 東 市	野 洲 市	湖 南 市	甲 賀 市	高 島 市	東 近 江 市	米 原 市	湖 東	小 計	小 計	小 計	小 計	学 校 施 設	障 害 者 団 体	登 録 ク ラ ブ	セ ン タ ー 主 催	行 政	そ の 他	一 般	貸 切 利 用 度	小 計			
視 覚	19	0	0	0	54	0	55	64	0	2	0	0	0	0	194	0	194	9	112	4	93	0	0	0		218	412			
聴 覚 言 語	71	0	0	39	27	21	2	0	1	5	0	0	0	0	166	0	166	11	205	48	70	0	0	0		334	500			
肢 体	1,958	1	1	0	1,146	154	411	5	191	53	28	16	0	4	3,968	43	4,011	513	1,186	1,676	1,140	0	0	0		4,515	8,526			
内 部	310	0	0	0	139	58	42	0	0	6	0	21	0	3	579	0	579	2	17	0	58	0	0	0		77	656			
知 的	2,031	4	0	45	1,767	270	559	158	78	241	3	5	0	0	5,161	3	5,164	2,509	1,255	344	1,647	0	18	0		5,773	10,937			
精 神	475	0	0	1	266	62	145	39	2	5	15	2	0	6	1,018	11	1,029	733	194	173	68	0	0	0		1,168	2,197			
情 緒	26	0	0	0	25	7	29	0	0	0	0	0	0	0	87	0	87	367	22	7	23	0	0	0		419	506			
介 助 者	2,168	0	0	56	1,730	316	677	218	113	229	6	28	0	1	5,542	14	5,556	2,298	1,646	1,745	2,027	0	7	0		7,723	13,279			
ボ ラ ン テ ィ ア	108	0	0	0	31	0	11	0	0	0	0	0	0	0	150	0	150	0	0	2	249	0	0	0		251	401			
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181	1,192	76	1,005	634	271	2,858		3,359	3,359			
一 般															2,081		2,081								2,858		2,858	4,939		
合 計	7,166	5	1	141	5,185	888	1,931	484	385	541	52	72	0	14	18,946	71	19,017	6,623	5,829	4,075	6,380	634	296	2,858		26,695	45,712			

## 月別・施設別利用状況

(単位：人)

施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プー ル	2,367	1,647	1,785	2,225	3,216	2,281	2,348	0	0	1,793	1,936	2,333	21,931	1,828
ア リ ー ナ	1,267	1,322	1,106	1,237	1,864	1,032	1,234	1,079	1,100	794	896	1,173	14,104	1,175
小アリーナ	312	303	366	717	660	445	375	522	367	350	294	341	5,052	421
トレーニング室	297	282	275	246	268	366	358	493	366	340	340	392	4,023	335
アーチェリー場	54	88	52	37	26	36	75	16	24	9	14	32	463	39
会 議 室	260	209	295	592	652	369	387	377	315	219	255	399	4,329	361
和 室	28	10	14	43	57	18	37	30	0	4	45	34	320	27
ボランティア室等	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	18	23	2
医 務 室	245	243	247	216	238	259	224	71	67	206	244	232	2,492	208
計	4,585	3,874	4,014	5,105	6,855	4,604	4,988	2,861	2,347	3,628	3,986	4,880	51,727	4,311
出前事業等	0	13	121	8	112	52	174	344	175	119	206	158	1,482	
開所日数	24	24	25	24	25	24	24	23	20	22	23	24	282	
日 平 均	191.0	161.4	160.6	212.7	274.2	191.8	207.8	124.4	117.4	164.9	173.3	203.3	183.4	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

自主事業は区分なしであるため合計に計上している

## 施設別・障害別利用状況

(単位：人)

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング 室	アーチェリー 場	会議室	和 室	医務室	ボランティア 室等	合 計	構成比 (%)	月平均	
視 覚	198	20	161	16	0	48	1	72	0	444	0.9%	37	
聴覚言語	139	173	64	22	59	59	4	4	1	521	1.0%	43	
肢 体	2,927	2,803	717	1,551	227	794	13	1,897	5	9,037	17.5%	753	
内 部	391	13	15	198	1	41	0	175	0	659	1.3%	55	
知 的	5,972	3,231	1,016	819	6	299	73	284	0	11,416	22.1%	951	
精 神	682	872	281	356	0	91	9	50	0	2,291	4.4%	191	
情 緒	234	235	148	0	0	26	5	1	0	648	1.2%	54	
介助者	6,455	4,144	1,896	1,005	54	700	83	4	2	14,339	27.7%	1,195	
ボランティア	179	142	66	1	1	111	0	0	13	513	1.0%	43	
その他	385	1,061	364	2	46	2,160	132	0	2	4,152	8.0%	346	
一 般	4,369	1,410	324	53	69	0	0	5	0	6,225	12.0%	519	
計	21,931	14,104	5,052	4,023	463	4,329	320	2,492	23	51,727	100.0%	4,311	
										出前事業等	1,482	2.9%	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

## 月別・障害別利用状況

(単位：人)

月 障害	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視 覚	39	32	45	44	59	43	38	26	16	26	35	41	444
聴覚言語	88	56	54	32	37	33	40	21	8	30	40	82	521
肢 体	750	715	863	874	840	819	833	500	413	724	747	959	9,037
内 部	48	50	62	50	52	57	70	38	26	74	71	61	659
知 的	758	985	924	1,302	1,629	1,127	939	519	389	870	918	1,056	11,416
精 神	174	158	185	214	198	286	247	175	102	148	201	203	2,291
情 緒	28	40	89	52	80	39	66	24	21	52	98	59	648
介助者	945	1,034	1,204	1,703	2,066	1,495	1,259	676	581	1,015	1,065	1,296	14,339
ボランティア	21	21	38	65	53	49	40	23	61	34	28	80	513
そ の 他	260	232	246	533	600	330	448	322	439	141	213	388	4,152
一 般	1,474	538	183	228	1,129	274	834	193	116	395	364	497	6,225
計	4,585	3,874	4,014	5,105	6,855	4,604	4,988	2,861	2,347	3,628	3,986	4,880	51,727
出前事業等	0	13	121	8	112	52	174	344	175	119	206	158	1,482

自主事業は区分なしであるため合計に計上している

## 曜日別・月別利用者状況

(単位：人)

月 曜日	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	188	687	506	518	745	1,713	228	0	4,585
5	290	686	445	329	823	973	315	13	3,874
6	339	740	522	667	798	827	0	121	4,014
7	318	717	713	522	1,480	1,172	175	8	5,105
8	528	1,240	861	542	762	2,548	262	112	6,855
9	300	598	614	706	760	1,167	407	52	4,604
10	370	636	714	673	809	1,451	161	174	4,988
11	139	480	454	223	500	524	197	344	2,861
12	108	272	274	308	371	839	0	175	2,347
1	378	502	402	540	780	803	104	119	3,628
2	211	562	689	422	888	792	216	206	3,986
3	243	590	514	674	1,246	1,166	289	158	4,880
計	3,412	7,710	6,708	6,124	9,962	13,975	2,354	1,482	51,727
開所日数	29	43	47	46	50	52	15		282
一日平均	117.7	179.3	142.7	133.1	199.2	268.8	156.9		183.4

## IX 利用者 と 支える 人 の 声

### 「目標を達成するために必要な場所」

宇野 正則

私はパラ卓球選手になって7年が経ちました。パラ卓球選手になる前は車いすツインバスケットボールを13年間やっており、その時から練習場所として福祉センターを利用させていただいております。

私は約20年前に交通事故で頸髄損傷という障害を負い車椅子生活になりました。元々、サッカーやフットサルを小学生からやっておりスポーツは好きでした。車椅子生活になっても何かスポーツをしたいと思うようになり、いろいろなスポーツを体験する中で1番自分にあっているなと思ったのが車いすツインバスケットボールでした。その後、2017年に車椅子卓球と出会いM.S.Tという車椅子卓球チームを作りセンターの登録クラブにさせていただき定期的に練習ができる環境ができました。ツインバスケットボールから競技変更をして本格的に卓球をすると競技開始から1年半で日本代表選手になり3年目で日本一(4連覇中)になりました。国際大会にも出場できるまで成長することができました。初めての国際大会は2019年にスペインパラオープンに出場。その後20大会の国際大会に出場しました。世界ランクが付きパラリンピックも目指すようになりました。世界ランク上位の選手にも勝てるようにはなってきましたが、もっと世界ランクを上げたいと思っています。「不自由はあるけど不可能はない」ということでこれからも成長できるように、そして目標の1つ「パラリンピック出場」するために練習場所として今後とも利用させていただきますのでよろしくお願いいたします。

### 「かけがえのない居場所」

加藤 優美

私は、母の送迎がきっかけで、滋賀県立障害者福祉センターを知りました。しかし当時は、送迎だけで、一度もセンター内には入らなかった私でした。まさか自分がセンターの常連になるとは……。

私が、36歳で、片半身麻痺になり、頼れる身内もおらず一人暮らしをする中で、このままどんどん体が動かなくなったら、どうして生活していけばいいのだろうか、と途方に就いていた時でした。「少しでも運動して、もっと体が動くよう行動を起こそう。」と奮起を促し思い出したのが、母を送っていったセンターのプールでした。

初めて私が、緊張しながらセンターに入った時、「私は、手助けしてほしいことをちゃんと人に自分からお願いできるのだろうか。」と不安で仕方ありませんでした。しかし初めてセンターに足を踏み入れた時、優しく私を見守り、歓迎してくださった指導員の先生方の声かけ、そしてその笑顔によって、不安だらけだった私の生活は、その日から一転しました。あれから10年、私はすっかりセンターに慣れ、日中気が付くと、家より、センターにいる時間の方が長くなっていました。今では、毎日センターに通うことが日課となり、私にとって、センターはなくてはならない場所、あるがままの自分でいられる大切な場所になっていました。

今の私は、毎日目標を立て、センターで運動を頑張っています。私の目標は、80歳を超えてもセンターに通い続けることです。私は、この障害者福祉センターとともにこれからも元気に歳をとっていきたく強く思っています。私に、生きる目標を与えてくれたセンターにありがとうの気持ちでいっぱいです。

## 「我が家の大切な場所」

田村 裕子

娘の柚稀は現在養護学校高等部3年生、重い身体障害と知的障害をあわせ持つステキな笑顔をする重症心身障害児です。～この子が好きで楽しめる一生の趣味を持たせてあげたい～という親の思いから娘が6歳の時、父・母・娘、3人一緒に県福プール通いが始まりました。

その時期、母である私は外出時に周りから浴びせられる視線や、何気ない言葉に過敏で社会に対してしんどく感じている時期でした。そんな中、3人で県福を訪れ、娘と一緒に「こんにちは。お願いします」と受付をすると事務所の奥から先生が「ゆうちゃん、よく来てくれたね!」と、娘の側に来て笑顔で迎えてくださいました。そして、訪れる度にいろんな先生方が「ゆうちゃん!」と声をかけてくださることが嬉しく県福は私たち親子3人にとってあたたかく、ほっとできる場所となりました。

プール通いを積み重ねていくことで歩けない娘が、浮具をつけて一人で水中を自由自在に動けるようになり、水泳記録会にも出る経験をさせてもらいました。また、クリスマス会や夏まつり、縁日、レッツイベント!、オープンアリーナなどのイベントにも参加させてもらい、その度に重い障害のある人でも参加できる工夫が施されていて、先生方の利用者さんへの愛情を感じ感動しています。県福は娘の成長を促し、娘のとおきの笑顔を引き出し、親をあったかい気持ちにさせてくれるところです。そして我が家にとって大切な場所であり、これからも親子3人で通い続けたいところです。これからもよろしく願いいたします。

## 「スポーツと精神科リハビリテーション」

精神医療センター デイケア 平野 博之

精神医療センターデイケアは、以前は統合失調症、今は主に発達障害の方々の就労等社会参加を支援するプログラムを提供しています。その中でリズム体操(プログラム名ポップアップアップ)とスポーツプログラム(同JOYSPO)をアリーナB面、小アリーナをお借りして実施しています。その他、コロナ禍前は夏まつり、昨年再開した障害者週間啓発イベント清掃で、清掃活動にも参加させていただいています。

デイケアを利用される皆さんは、対人関係や集団活動の中でうまくいかない体験と思いを重ね、傷つきや疲れから活動の意欲は低下し、自分を表現することに強い負担を感じています。他のプログラムで書いた絵を夏まつりで晴れ晴れしく飾らせていただいても誰も見に行かないなど、活動が広がっていかないこともありました。

しかし、JOYSPOでは車椅子バスケットやボッチャ、カローリングにスポーツ吹矢他、これまで体験したことがないスポーツを教えていただき、恐る恐るやってみる内に、利用者さんの気持ちが次第に動き、気持ちが動くときや表情が出てくる変化に触れることができ、運動の良さを再認識する機会になっています。

内容や意味に気を遣いながら周囲とのコミュニケーションに疲れた利用者さんも、運動を通して自分を素直に表現することに再び取り組むことができます。その場を提供し、利用者さんの背中を押してくれているのが、県福と職員の皆さんです。感謝を述べると共に、これからも変わらぬご支援をお願いします。

# X 施設の概要

## 1. 設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

## 2. 建設の経緯

- (1) 昭和61年 7月11日 身体障害者福祉センターA型検討委員会設置
- (2) 昭和62年 3月 身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告
- (3) 平成元年 7月 3日 建築工事着工
- (4) 平成 2年 4月 1日 滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置
- (5) 平成 2年 6月27日 建築工事完工
- (6) 平成 2年 8月 1日 滋賀県立障害者福祉センターに名称変更
- (7) 平成 2年 8月 4日 開所式
- (8) 平成 2年 8月 7日 一般開放
- (9) 平成 8年11月 4日 多目的トイレ新築工事着工
- (10) 平成 9年 3月27日 多目的トイレ新築工事完工
- (11) 平成 9年 4月 1日 多目的トイレ供用開始
- (12) 平成14年 2月20日 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所)

## 3. 建設の内容

- (1) 所在地 滋賀県草津市笠山八丁目 5 番 130 号
- (2) 規 模 敷地面積 12,679㎡  
建築面積 4,067,676㎡ 延床面積 3,970,219㎡
- (3) 構 造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建
- (4) 建築工事費 約 12 億 2 千万円
- (5) 障害者への配慮
  - ア 正面玄関に誘導チャイム
  - イ 玄関ホール、多目的ホールに誘導チャイム付き点字案内施設図
  - ウ 所内外に点字誘導ブロック
  - エ 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
  - オ 屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
  - カ 廊下に所内案内点字付き手すり
  - キ ナースコール（プール、アリーナ、トイレ、更衣室等から事務室へ）
  - ク 会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
  - ケ 身体障害者に配慮した便器・洗面台
  - コ 多目的トイレに自動扉・収納式多目的シート  
オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者）1ヶ所
  - サ 館内トイレ全洋式化（内ウォシュレット11台設置）

- シ 冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、プール男女更衣室）
- ス 車椅子で飲める水飲み器、ボトル用給水器設置
- セ 文字放送地上デジタルテレビ
- ソ 全館にスプリンクラーによる消火設備
- タ 玄関及び観覧ホールに AED 設置
- チ アーチェリー場に雨よけ屋根設置
- ツ アーチェリー場スロープの勾配変更工事

(6) 施設の内容

施設名	面積(m <sup>2</sup> )	内容
アリーナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン等のライン区画 各種スポーツ用具、バスケットボール用電光掲示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小アリーナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・車いす用）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等 10種類以上の運動トレーニング器具を設置
温水プール	750.76	FRP製 25m×13m（6コース）、水深 1.35m～1.55m プールフロア（2コース 40cmかさ上げ） 日本水泳連盟公認、水温 30℃、室温 32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、水質自動監視装置設置 自動計測装置（PT-8000）
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用トイレ、観覧ホール、器具庫
会議室	158.59	100人収容、スライディングドアにより3室に間仕切り可能、 集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和室	40.90	10畳×2室、文化・教養活動用として利用
医務室	13.86	応急処置、医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラウンジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、 障害者の情報提供の場、談話室として利用
その他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		9的(30m、50m)
駐車場		71台（うち車椅子優先区画15台）

- (7) 令和5年度の主な改修工事  
 ア 温水ボイラー改修工事  
 イ プール水ろ過ポンプ改修工事

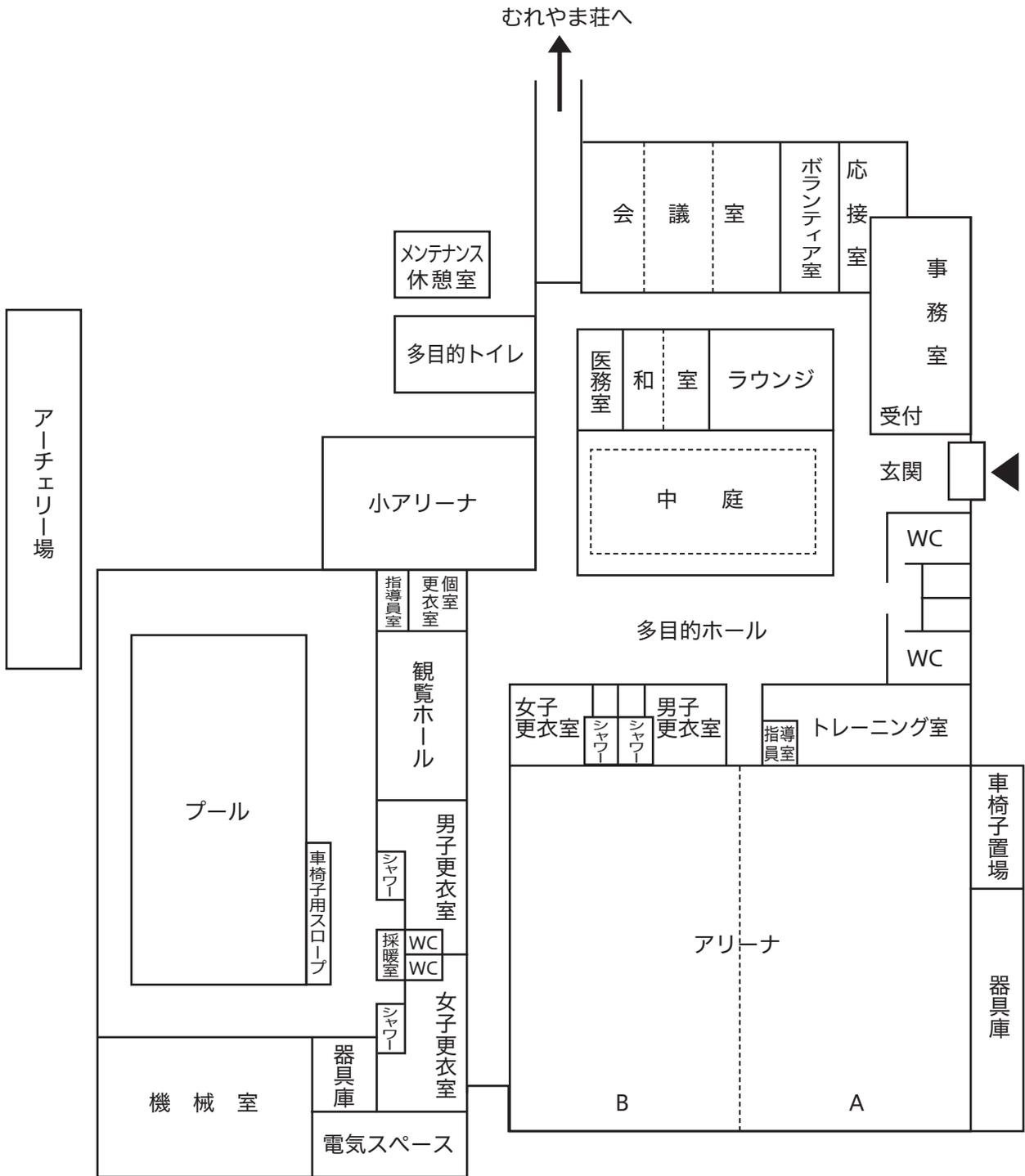
#### 4. 管理・運営

- (1) 設置主体 滋賀県  
 (2) 運営主体 指定管理者 公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会  
 (3) 休 所 日 ・月曜日（休日である場合を除く。）  
 ・休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く）  
 ・12月29日～翌年1月3日  
 ・上記のほか管理者が定めた日  
 (4) 開所時間 午前9時30分～午後8時30分  
 (5) 利用時間

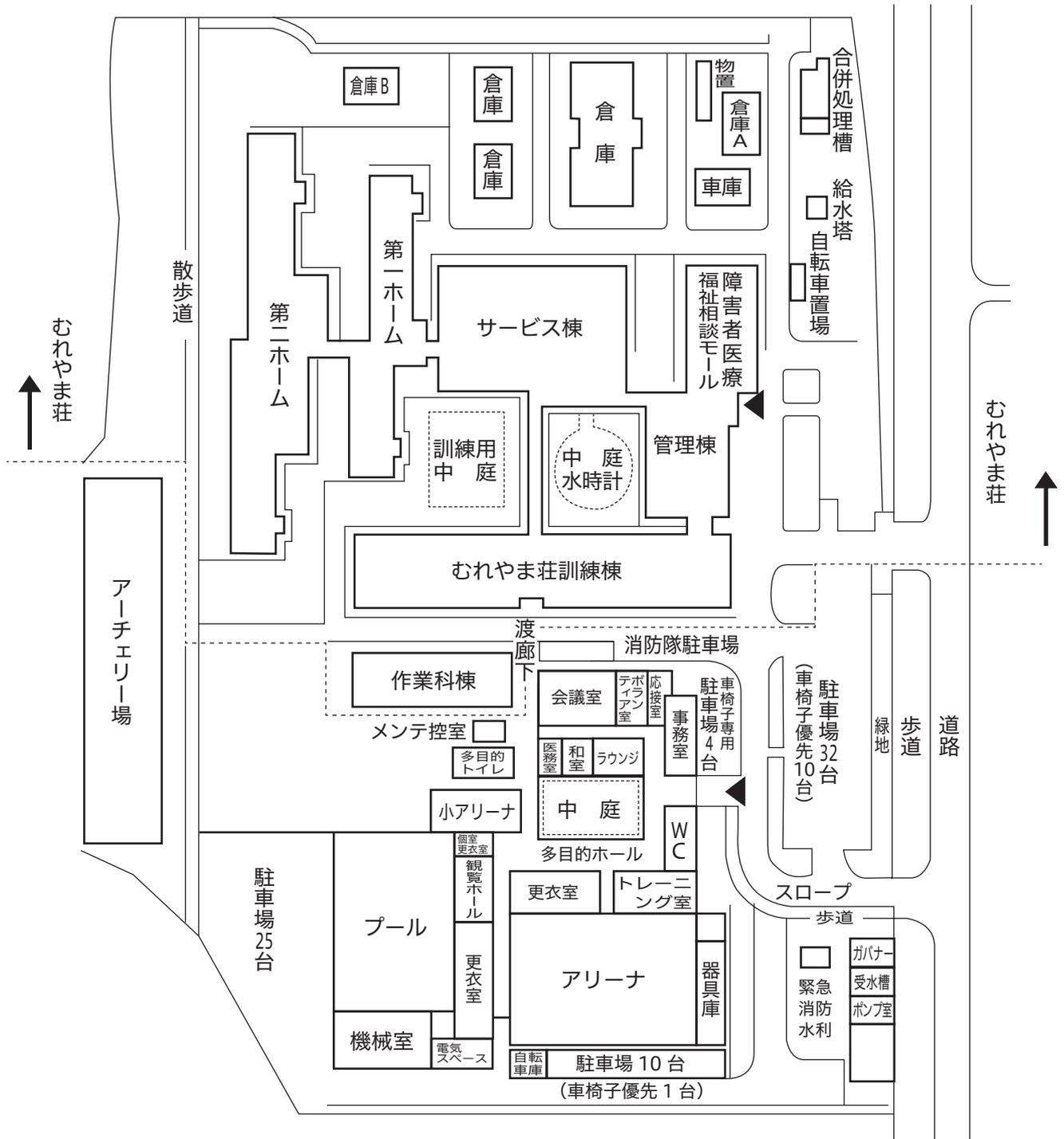
区 分	全 施 設
午前の部	9時30分 ～ 12時00分
午後の部	13時00分 ～ 16時30分
夜間の部	17時30分 ～ 20時30分

- (6) 利用対象者  
 ア 身体障害者手帳所持者  
 イ 療育手帳所持者  
 ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者  
 エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者  
 オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者  
 カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者  
 キ 前記ア～カに同行してきた介助者  
 ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない程度）  
 ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者  
 （障害者等の利用を妨げない限度においてスポーツ施設有料にて利用可）

平面図



# 配置図



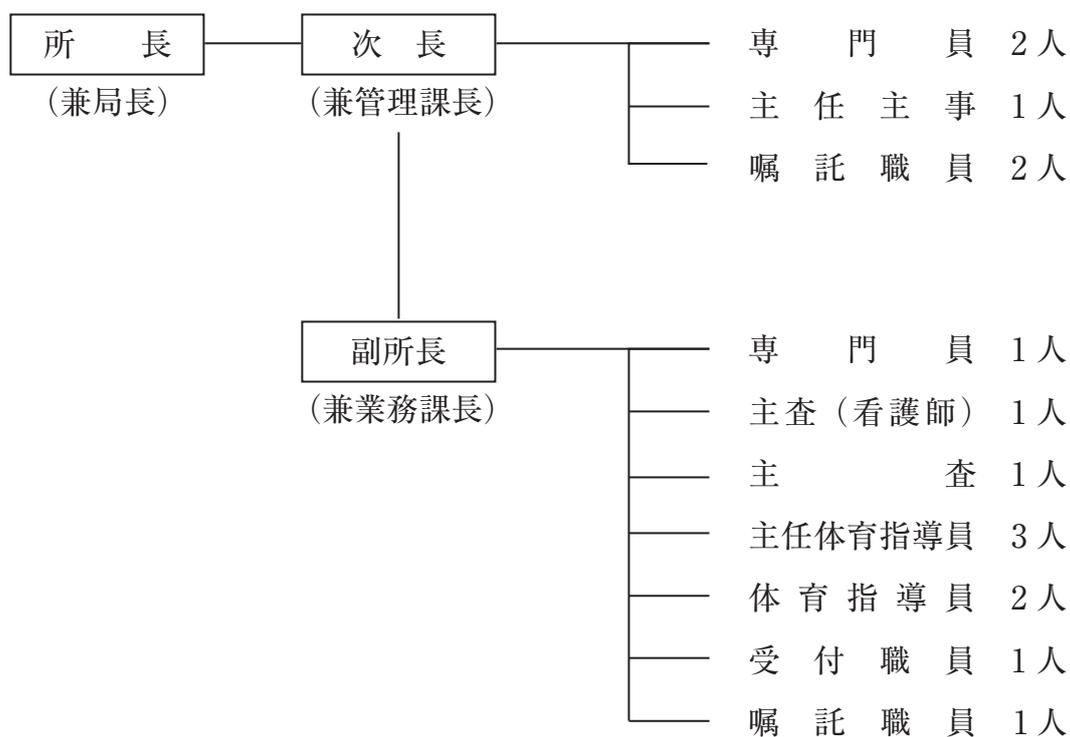
# XI 組 織

## 1. 組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理運営をしている施設です。

職員体制は表のとおりとなっています。

(令和6年4月1日現在)



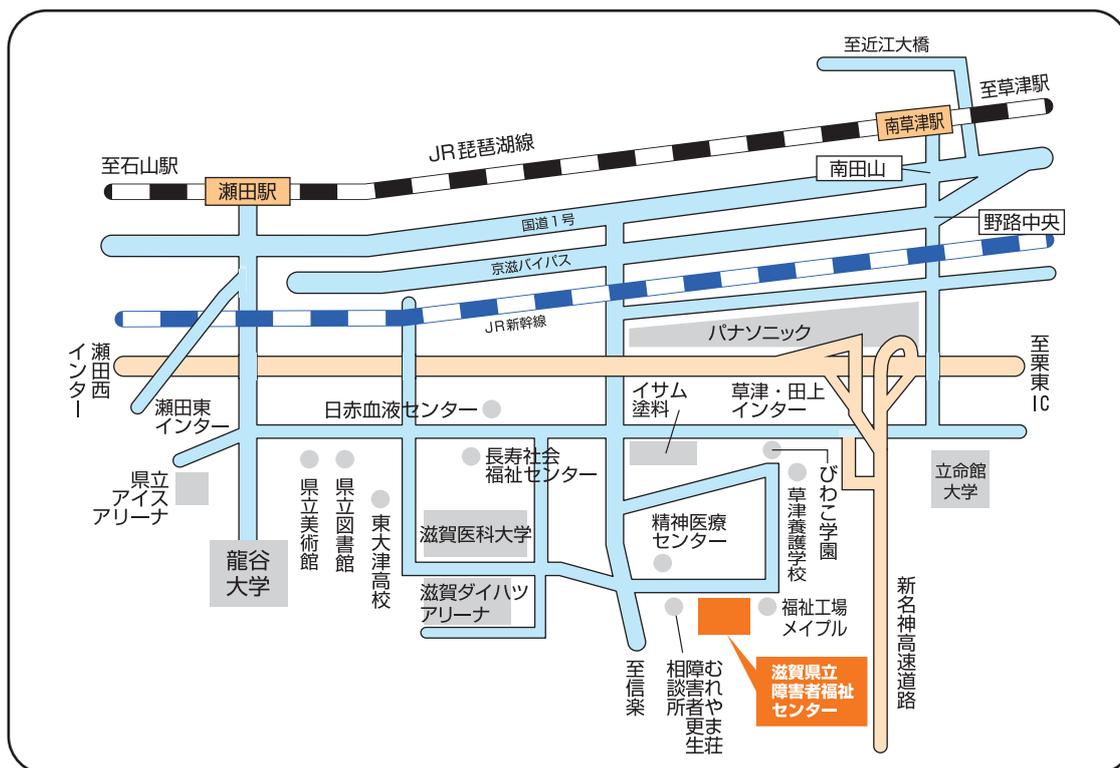
# 滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072 草津市笠山八丁目5番130号

TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641

<https://www.shiga-fukushi-center.com/>

E-mail [webmaster@shiga-fukushi-center.com](mailto:webmaster@shiga-fukushi-center.com)



## ●電車での来所

JR 南草津駅(バスのりば⑥番)から 総合福祉センター前下車  
※ JR 南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)が運行されています。(帝産湖南交通)

## ●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路 草津・田上インターから約3分